

ESD 先進地岡山から
地域をつくり 未来を拓く 公民館 ～集い、学び、協働する～

【第1回】**岡山市立公民館大会**



【とき】 2018 **2/12** 10:00 9:30 受付開始
[月] 16:00 [振替休日]

【会場】 **岡山市立中央公民館**
岡山市中区小橋町1-1-30
(岡山市福祉文化会館内)

報 告 集

(作成・発行) 岡山市立中央公民館・第1回岡山市立公民館大会実行委員会

岡山市立中央公民館 〒703-8293 岡山市中区小橋町一丁目1-30

TEL : 086-272-7886 FAX : 086-271-1384

目 次

1	実行委員長あいさつ	1
2	基調講演	3
3	分科会のまとめ	21
	第1分科会（地域の子育て支援）	22
	第2分科会（防災・減災）	25
	第3分科会（地域福祉）	28
	第4分科会（若者の参画）	31
	第5分科会（地域づくり）	34
4	第1回公民館大会開催ストーリー	37
5	アンケート結果	47
6	資料（チラシ・ポスター）	62

ご 挨拶

第一回岡山市立公民館大会が、岡山市立中央公民館主催で開催され、岡山市内中学校区の全37公民館代表職員と、各館エリアの市民とが一堂に会して開催され、日頃の公民館活動を紹介し、地域が抱える課題・公民館のあるべき姿について、忌憚なく意見交換することが出来ました。

この公民館大会は単に公民館職員の為の大会ではなく、市民協働で開催したものであり、全国的にも先進的なことでした。私も一市民ではありますが、このことを誇りに思い、市民との協働で開催することを企画された公民館に対して、深く敬意を表する者であります。

また、ご参加をいただきました市民の皆様には、厚く御礼申し上げます。特に本大会では、日頃公民館を利用されていない方や高齢者から学生たちなど世代を超えて多数の参加があり、内容の濃い討議が為され、市民と公民館職員の有意義な交流ができたのは画期的なことでした。

当日、ご来賓として岡山市教育委員会教育次長安田充年様、東京大学名誉教授佐藤一子先生にご臨席賜り、佐藤一子先生には、「地域をつくり未来を拓く公民館」と題しての、ご示唆に富んだ基調講演をいただきましたこと、また、最後の全体会議でも、貴重なコメントもいただき、厚く御礼申し上げます。

また、日頃各公民館におかれましては、各地域の特性を生かしつつ、我々市民に学びの場を提供していただき、この場を借りまして深く感謝申し上げます。

もとより、公民館は生涯学習の場であり、第一線を退かれた方にとっての学びの場では有りますが、学校教育では学べないことが学べる場所、幼児から児童、学生そして、現役の社会人に取りましても、心を落ち着かせ、人間力を養う場所ではなくてはなりません。そうした意味合いに於いて公民館は、家庭と並び称されるものではないかと私は考えます。

午後からは5つの分科会に分かれて発表や討議がなされましたが、いずれも重要なテーマです。共通して言えることは、私たち人間も自然の一員であり、仲間や大自然のなかで活かされているという意識で、自然を大切にすることを養い、絆を深めることがなければ解決できない問題ばかりです。ESDの観点から自然循環型社会を構築する為に、公民館の果たす役割はとて大きなものがあると考えます。

本大会が市民協働と言う意味で新しい時代の幕開けとなりますことを祈念してやみません。この大会開催に向けてボランティア精神を発揮され、ご尽力、ご支援いただきました多くの関係者の皆様には、衷心よりお礼申し上げます。

第一回岡山市立公民館大会 実行委員長 内田 武宏

基調講演「地域をつくり未来を拓く公民館～ESDの推進からみえてくる地平～」

佐藤 一子（東京大学名誉教授）

*はじめに

皆様こんにちは。ご紹介いただきました佐藤です。この岡山の37の公民館の第1回大会にお招きいただきまして、大変光栄に思っております。また、緊張もしています。幸いお天気も素晴らしいので、皆様のお力でこのホールが満席になりました。皆様の公民館に対する期待・熱意・行動力に圧倒されながら、本日一日の研究大会が本当に有意義なものになることを期待しつつ、お話をさせていただきたいと思います。

さきほど、内田委員長から「公民館というのは職員だけで運営されるのではなくて、市民と協働して初めて本当の公民館活動が始まるのだ」というお話があったと思います。この思いはおそらく公民館を戦後から今日につなげてきた全国各地に共通する思いではないでしょうか。

ちょうど先週、東京都公民館連絡協議会の研究集会が開かれ、私は一つの分科会に参加させていただきました。やはり250人ぐらいの集まりで、市民と職員が半々ぐらいの集まりで、本当に公民館というのは、市民の力によって魂を得られる、それを職員が黒子となって支える、そして、そういう形で70年という歴史を刻んできた実感します。

この岡山でも、すでに50年近い歴史があると聞いていますが、先程来、ご紹介にありますように、岡山がESDという大きな目標を掲げることによって、新たに国際社会の中での公民館の立ち位置をめざし大きな一歩を踏み出したと思います。その意味でも、今回の第1回公民館大会が皆さんにとって、ESDって何だろう、これからの公民館はどう歩いていくのかをめぐって、一緒に考えていける場になればと期待しています。



今日お話しする4つの柱について、はじめにご説明します。今、全国的に公民館が地域づくりをめざすということで、関心が高まっています。20年ぐらい前には公民館は生涯学習、個人の生きがい強調される時代があって、特に都市型の公民館は生涯学習ということで、多様性を強調する時代がありましたが、現在どの公民館でも地域づくりというテーマを掲げています。これは公民館の古くて新しいテーマだと思いますが、なぜ今、地域づくりなのかということ、第1の柱でお話したいと思います。

それから第2の柱としては、岡山がESDの推進を掲げていますが、地域づくりということで捉えれば、全国的に共通するテーマだと思います。しかしESDという横文字になると、やっぱりよくわからないということで、なかなかそこまで手がでないという公民館が全国的には多いと思

います。岡山はこうした国際的なテーマと地域の公民館活動をつなぐというところで、非常に先進性のある公民館活動に踏み出していると感じております。どういう点が岡山の先進的な活動として注目されるのかについて2番目の柱でお話したいと思います。

第3の柱はこのESDの内容に関わって、これは生態系の保護、持続可能な社会づくりとされていますが、それをグローバルなところで叫んでも実現するものではなくて、地球上のそれぞれの地域でそれぞれの足元で作りだしていかなければならない。そういう足元からの構築がなされなければいけないということで、岡山の実例が午後から発表されますが、ここでは私自身がフィールド調査で関わっている山形県の鶴岡市の事例とイタリアのスローフードについてご紹介してみたいと思います。

そして、最後にこのESDを推進することがどういう学びであり、どういう地域が作られていくのかについて、問題提起をして講演のむすびとしたいと思います。

1. 今、なぜ「地域づくりをめざす公民館」か

(1) 都市型公民館の模索—新たなステージ

第1の柱として、今なぜ「地域づくりをめざす公民館」が重要かという問題です。いうまでもなく公民館にとって地域づくりは古くて新しいテーマです。戦後の寺中構想によって公民館が発した時から、地域づくりのために公民館があると言われていたわけですね。それは昨年のプレ大会で、千葉大学の長澤先生が詳しく紹介されて記録も作成されていますので、ぜひそれをお読みいただき、確認していただきたいと思います。

寺中構想イコールまちむらの再興・復興、公民館をむらの茶の間にする、みんなが集まって将来を考えていくということで公民館が生まれたわけです。戦後直後から50年代にかけて35,000館ぐらい一気に広がりました。いかに当時、戦争で疲弊していた日本社会にとって、みんなが集まって自由に話せる場所が必要だったのかということが、この35,000館という数に表れています。

その後次第に公民館は公共の整備を通じて、中央館などが分館を合併するような形で数としては減少し、18,000館ぐらいになりました。2000年代に入って公民館がまちづくりセンターなどに移管されるなどの再編によって、統計上はさらに減っています。この70年に及ぶ公民館のあゆみを振り返って、都市型公民館が生まれてきた1970年代初めから80年代にかけてを画期として、そこから今ということを考えてみるのが、一つの視点を与えてくれるのではないかと思います。長い歴史をたどることは省きまして、70年代以降の都市型公民館は何をめざしてきたかをふまえて、岡山の現在を振り返る手掛かりになればと考えてお話したいと思います。

都市というのは農村とは全く違います。都市型公民館と言われるようになったのは、東京のベッドタウン、あるいは大阪のベッドタウンに70年代以降公民館が設置されて、新たな公民館像が模索される状況を表しています。岡山は合併をした地域はもちろんですが、比較的農村型の公民館も複合されていて、都市型、農村型の統合型が岡山の姿だといえるかもしれません。

一般には寺中構想では「町村の公民館」という言い方をしました。東京など大都会にはほとんど公民館の設置がみられませんでした。東京都23区内には3館しかなかったんです。今は全くありません。ですからそもそも公民館は、農村には数多く定着したけれども、都市の生活と公民館という点では、あまり密接な関係が無いままにずっときていたんですね。

ところが、1960年代から70年代、高度成長期の終わりの頃から、東京都の周辺の多摩地域のベ

ッドタウンの公民館づくり運動が広がっていきます。都市の住民にとっても公民館は必要なんだという市民ニーズが高くなって、当時まちづくりでは都市計画の一環に公共施設の配備計画が進められており、多くのまちで図書館と公民館がトップに位置づけられる時代でした。学校の建築が一段落したということもありましたが、図書館や公民館を建てるのが、つまり社会教育施設の建築が都市計画の中で市民ニーズのトップになるという時代状況が70年代に生まれて、もとはまちむらの茶の間だった公民館が、都市住民にも必要な場所となってきた時代です。この時代を公民館の設置が広がる第2ステップとして、公民館の歴史を捉えることができるのではないかと思います。その象徴が1974年に東京都教育庁から出された「新しい公民館像をめざして」であったと思います。実態としては農村型と都市型が複合しているので、あまりはっきりと都市と農村を分けるのは正しくないと思いますが、ここではわかりやすく大都市ベッドタウンの公民館という意味で、従来の集落に基礎を置く公民館とは違う都市型の公民館という捉え方をしておきます。

ここでは何が特徴的であったかという点、それぞれの人が必ずしも地縁的なコミュニティには属していないという生活が一般的だったということです。岡山では比較的職住近接のライフスタイルの方が多いかもかもしれませんが、大阪、神戸、名古屋、東京などでは1時間以上離れた周辺地域から中心部に働きに行くことがあたりまえなので、足元の地域に対して都市住民は無関心で所属意識をもたないことが多いですね。自治会を一生懸命担っている地元の方はいらっしゃるけれども、男性・サラリーマン・若者は、全く地域と関係がない生活をして通勤・通学で時間を取られてしまうというライフスタイルが一般的で、そもそも都市住民が地域に根ざすということが非常に難しい。高度成長期以降の都市的な大衆消費社会と言われる生活状況のなかで、このようなライフスタイルが広がっていたことは、地域と関わるという面では弊害となってきたと思います。このベッドタウンで公民館が欲しいという住民運動が起きた背景には、お母さん方が子育てをするのにお互いに繋がらなかつたら子育てが孤独でばらばらになってしまうという事で、一緒に集まる場所が欲しいという動きが起きてきたことが大きな要因であったといえます。つまり公民館づくり運動の大きな担い手として、当時は働いていないお母さん・専業主婦の方々、地域に参加したいけれども地元の町会などには知りあいがいないという、いわゆる新住民といわれる人々がネットワーク・繋がりを求めて集まり、新しいまちづくりを始めたということが、公民館をつくっていく大きなパワーになっていったといえると思います。

(2) 1990年代以降の変化

こうして都市型公民館が広がってきたのですが、1990年代から2000年代にかけて社会は大きく変化して、まず専業主婦と呼ばれる人たちがほとんどいなくなってしまった。皆さん働いていますね。子どもが幼児の時はご家庭にいらっしゃるかもしれないですが、働いている女性が多くなって、若いお母さん方が公民館を活動拠点にしていきいきと公民館に関わるというかつての状況は大きく変化しています。

それから、これは実際に若者の変化でもあり、社会の変化でもあると思いますが、学校中心社会、つまり学歴が高くなければ世の中で一人前ではないというような、日本の学歴社会・学校中心社会という価値観の広がりがあります。これは子どもを持つ多くの親たちに共通する考えでもあると思いますが、そういうことによって、次第次第に社会教育というものの大事な意味が見失われてきた、教育観の変化という問題があります。私も前任校の法政大学などで学生に「公民館っていうとどういうイメージですか？」と聞くと、「暇なお年寄りが囲碁をしている場所」という

ような答えが返ってきます。ところが、半年間社会教育とか生涯学習のことを授業で学んでいるうちに、「先生、どうして子どもたちに学校教育だけじゃなくて社会教育っていうのがあるということをお教えないんですか？」と問い返すように変わってくるんです。つまり今になって社会教育とか生涯学習を教えられたって遅い。もっと子どもの時から知っていたかったということですね。そういうふう子どもたち・学生たちが言うようになるくらい、今の社会では、教育イコール学校という教育のとらえ方が一般的になっています。

日本は非常に国民の高学化が進んでいて、その意味では発展途上地域に比べれば、恵まれた教育社会なのかもしれませんが、逆に皆さんがE S Dで世界各国の方々と交流したときにお気づきになったと思いますけれども、学校だけで教えられることは限りがある、地域社会・生活の中で学ぶということを失ってしまったら人間は一人前になれないというとらえ方が当たり前の教育観なのに、日本ではそこが失われています。必要な情報などはスマホで何とかなるみたいな学習社会・情報社会になっているという傾向が、特に2000年代に入って顕著になってきています。

公民館という場は皆で共同の学びを作るところだと、戦後ずっと学習実践が共有されてきたと思いますが、サークル活動の場所を借りられればそれで良いという、いわゆる学習に参加する意識ではなくて、単なる場所の利用者という意識が公民館についても広がってきました。それなら別に公民館に職員がいなくてもいいのではないかということで、自治体の財政合理化の背景もあり、公民館から職員



を引き上げる、単なる貸施設にしていくという、そういう動きが全国的に広がっています。社会全体が高学歴化して、社会教育の存在感が見えにくくなっている現代において、公民館の役割とは何なのかということを考えないと、特に都市部で公民館は一般集会施設と同じように捉えられることになってしまいかねない。高度成長期以降に、都市部に公民館が広がった第二の段階に比べると、今はその公民館の将来をいったいどう考えたらいいいのかということが問われる第三の段階に入りつつある、あるいはすでにもう入っているということができると思います。

若いお母さん方が自分たちの子育てと一緒にやっていきたい、そして子どもたちも大人たちも一緒に育ち合っていきたいという思いをベースにつくり出してきた公民館ですが、一方で現代の公民館では、多くの高齢者が孤立化していて、互いに手をつなぐ場所の必要性が強く言われています。

それから、高度成長期以降日本社会は、一億総中流でみんな同じような暮らしをしているというような捉え方になっていたのが、2000年代に入って、かなり貧富の差が大きくなっています。OECDの統計で見ても、日本の子どもたちの貧困率はかなり高い数字を示していて、均質な中流層という実態ではなくなっています。子どもの貧困という問題に目を向けなければいけないという問題意識、あるいは不登校、これも何十年も続く問題ですが、不登校のまま引きこもりになった方々が、日本社会に数十万人もいて、40代・50代になっているということも想定されていま

す。そういう方たちは、親御さんが亡くなったらどうするんだろうというような問題もだんだん顕在化しています。若者の自立の支援をしていかなければいけない。むしろ農村よりも都市に生活の困難が広がっているということも、2000年代の特徴であるわけです。

そういうことを考えたときに、改めて本当に地域社会の中で、人々が皆お互いに助け合いながら、様々な文化を共有しながら、共にコミュニティをつくっていく、その拠り所として公民館がもっともっと地域に根ざさなければならない。見えない部分の人々の声に耳を傾けていかなければいけない。そのための地域づくりというものをあらためて考えていく必要があるのではないかと。このような課題意識が先進的な公民館の側から模索されている状況になっているのではないかと思います。そういう意味で、一人ひとりの生きがい、多様な活動、それは大事なんだけど、合わせてやはりどういう地域社会なのか、どういう繋がりが本当にその中に息づいているのか、そういうところを問い直す公民館のあり方ということで、今地域づくりをめざすということが、全国的に特に都市部で、農村は改めて言う必要がないという面もあるので、特に都市部でこのテーマが大きく問われ始めてきている状況にあると思います。

(3)「新しい公民館像をめざして」(東京都教育庁社会教育部、1974年)の意義をふりかえる

1974年の「新しい公民館像をめざして」は、岡山の公民館にも影響を及ぼしているかもしれませんが、4つの提言をしています。

まず公民館は「住民の自由なたまり場」ということで、ロビーにふらっとやってくる、そこで参加できる共同の広場というイメージが描かれています。それから集団活動の拠点ということで、サークルを非常に大事にしています。非常にたくさんのサークルが登録している。そして自由に公民館で出会っている。そして「私の大学」です。これも当時強調された言葉です。日本の社会教育は、どちらかというサークルの中の話し合い学習が活発でしたが、もっときちんと系統的な知識を持たなければいけないということで、講座型の学習、あるいはその講座型の学習も単なる承りではなくて、住民参加によって企画運営委員会が内容まできちんと組み立てるような自主企画講座。こうしたことが私の大学の中で提言されてきました。そして最後に、文化創造の広場ということで、表現活動とか発表会、公民館祭とかロビーでのコンサートだとか展示活動などが活発に行われています。

都会の場合は、こういうふうな公民館を利用する市民の様々な集まり、ネットワークで交流が広がっていくわけですが、私の関係している東京周辺の自治体ですと、自治会という地縁的な組織と公民館で作られるコミュニティが必ずしも一体的ではない、なんとなく少し離れている。自治会の中でも公民館に関わろうという方も個人ではいらっしゃるけれども、自治会として公民館活動に大きな影響を持っている農村部の公民館とは違う。ですから都市型・農村型と分けるときに、地域の自治会、集落でみんなが寄り合う地縁性と公民館運営が不即不離の関係をもっている農村的な特徴と、必ずしも地縁性にもとづかない都市的な特徴の違いがでてくると思います。都市でも自治会などとの対話をもっている場合もありますが、参加の単位が個人であり、サークルであるということです。農村部ではもともと公民館以上に、まず自治会でつながっていて、切実な問題は一緒にそこで議論していますので、そういう基盤に支えられて公民館活動が進められている。新しい形でのコミュニティを作って、まちづくりの方向性にむけた市民の意識を高めていこうということをめざしたのが東京都教育庁の提言だったのではないかと思います。

(4) 「古くて新しく」そして「未来志向的・次世代型」公民館のあり方

この提言が1974年だったわけですが、その後の公民館活動の中でいろいろ地域づくりが意識されるようになりました。都市型公民館の中でも古くからの農村型公民館にあったような活動のあり方を取り戻して、まさに未来志向的次世代型、つまり、その地域が持続可能な地域になっていくことをめざす公民館の動きが近年各地に出てきています。

積極的な活動事例ということで、いくつか紹介しておきたいと思いま。まず課題解決ということと、人とのつながりがキーワードになる公民館活動です。高齢化した利用者層が増えているわけですが、高齢者の方々が今までは60歳で定年、平均寿命が70代だったのが、今では80代半ばとなりました。そして100歳まで生きなきゃいけないとか、生きられるとか難しいですが、長寿社会というものが身近になりつつあるということで、年齢層が50~90歳代くらいまで幅広い年齢層の高齢者に広がってきています。その中で大きな問題になるのが、仕事一筋だったサラリーマンだった方や大きな工場に勤めていたような方々が定年になったときに、どのように地域でつながりをもつのか。まるで勝手がわからないという男性の方々がたくさんおられます。私の知り合いなどは大きな自治体の部局長までされた方ですが、定年になったら行くところはパチンコ屋だけ。冗談でなく、そういう方もおられます。やはりもっと誰もが生きる権利、人間である権利として、「定年になったら楽しくいろんなことしましょうよ」という場、自己実現ですよ。そういうことがひとつ課題解決の柱になって新たなとりくみがいろいろ始まっています。

(5) 課題解決型学習と人々のつながりを生み出す公民館

それから個人だけではなくて、今日の分科会にもありますけれども、地域の課題解決ということで、都市部でも先ほど自治会の問題を申し上げましたが、自治会も含めて福祉、環境、防災、自治というところで新たな学習、そして様々な活動が生まれていることも注目されます。福祉との連携で高齢者自立支援とか、いろんな人が一緒に暮らしていけて、なるべく長くお互いに助け合って自主的な生活を管理しながら、生きていく能力を身につけなければ、おそらく自治体の福祉予算がパンクしてしまうのではないかという状況になりつつあります。あるいは病院にしても医療システムにしても、ケアシステムにしても、とても対応できないということがもうあと数年後に迫っているわけです。そういうことでやはり学ぶということと、ともに暮らす、関わり合うということを結びつけた課題解決の方向性が大きなテーマになってきていますし、環境、防災、これも言うまでもなく、非常に重要なテーマになっています。ほとんどの自治体で防災の訓練はやっていますけれども、訓練だけで話が済むことではありません。災害に強いまちづくりをしなければいけないわけで、そのまちづくりをしていくのはやはり住民の生活の場でなければならない。そういうところで自治会との連携とか、公民館での話し合いのネットワークからまちづくり協議会を発展させていくという動きをめざして、公民館活動がそれを促していくというような地域課題解決学習、これは必須のテーマになってきていると思います。

(6) 連帯とネットワーク推進の拠点となる公民館

そしてもうひとつは、お互いが個々人ばらばらということを乗り越えて、つながり合う社会というもので、とてもキーワードとして大事にされてきているのが、世代間の交流と多文化、外国人の方々との交流、この二つの視点が重要です。先ほどの学生の話ではありませんが、子どもからずっと公民館、地域というところに接点を持たないまま育ってしまった若者がとても多く

なっています。今は地域で遊ぶという姿もあまり見られなくなってきました。そういう意味では、公民館が学校や児童館とつながりながら、大人と子どもが出会い、交流し、様々に学び合えるような文化的な交流をどう生み出していくか。岡山では、子どもの文化団体などが非常に活発に子どもの参加を進められているとお聞きしていますが、公民館という安心できる場所だからこそ実現できるということで、世代間交流が活発になってきています。

その中でやはり困難をもつ子ども、若者、あるいは障害者、そういう人々に、どう公民館活動をきっかけにした世代間交流に手を差し伸べていけるのかということが大きなテーマになって、就労支援であったり、子どもたちの体験学習であったり、多摩の公民館で有名なのが障害者自立支援ということで、障害者が営業する喫茶室が公民館のロビーで開かれている事例もあります。

私が今公運審の委員長をつとめている国分寺市では、障害者の支援団体が3か所の公民館で朝から閉館までコーヒー類とランチを出していて、ランチが500円で50食くらい出ています。普通のサラリーマンが「よそより安い」と言って食べに来たりしています。これは障害者の働く場所、つまり共同作業所になっています。有機野菜の産直も行われています。ですから普通、公民館のレストラン経営は少ないと思いますが、障害者自立支援という公民館活動の目的、そして勿論障害者青年学級があつての支援活動です。そういう障害者青年学級と自立支援と、そして作業所みたいなものが、公民館ロビーという公共の場所で、食事提供事業を行うようなことができています。これも20年以上の長い歴史を経て生まれてきている実践ですけれども、こうした困難な人々に手をさしのべる、相互扶助が生まれていることも世代間交流の例であると思います。

多文化交流についても、外国人の日本語教室として発展してきました。先日も埼玉にある多文化交流のNPOのお話を聞く機会がありました。日本語教育だけではなくて、生活支援が非常に大事になっている。そのために、何でも話せるという関係をつくらないと本当の意味での外国人支援はならないということで、日本語学習も大人から子どもまで、いろいろなレベルで開いていますし、生活相談を行ったり、料理教室などを開いて一緒に気楽に話し合えるしゃべり場をつくってみたり、様々な多文化交流が進んでいます。ネットワークという意味では多文化共生ということが大きなテーマになってきていると思います。

また、公民館はどちらかというと地区内で自己完結している施設というふうに考えられがちですが、その内容やテーマによって、全県的あるいは全国的あるいは世界的に活動しているNPOやボランティア団体、あるいは様々な経験を持っている専門機関の方々と、課題を共有しながら連携していくという方向性も、その活動の内容によって必要になっていると思います。長野県の公民館などでは、保健師さん達とか教員達との連携が活発ですけれども、国際NGOとか、ユネスコ協会などとの連携によるグローバルな問題へのとりくみ、地域や国境を越えた連携というものを、どの様につくっていくのかということも次世代型ということで問われているのではないのでしょうか。

2. ESDの推進をかけた岡山市公民館の先進性

(1) 公民館から「地域学習」のネットワークへ

岡山市の公民館は非常に先進的だと私は外からの目でそう感じていますが、どういう面が先進的と感じるのか、いくつかの点をあげてみたいと思います。

今日は会場で私の2冊の本を販売していただいているのですが、その一つは『地域学習の創造』

という編著です。この中で、地域を学ぶということ、それは単に内容として地域の課題とか、地域の歴史とか文化とか、そういう内容面での地域ということだけではなくて共同で解決する、或いは共同で新しい未来志向の地域というものを共有していく、ビジョンを共有していく、そういう創造的な学びが広がっているということで、各地の事例を取り上げて、実践的な分析を複数の執筆者がこの本の



中で行っています。地域ということに対する非常に総合的な学習が広がったきっかけは、やはり東日本大震災です。阪神淡路大震災がその前段階となります。そして2000年代に入って少子高齢化という非常に厳しい統計的な未来予測予想が提示されたことから、足元の地域をどうしていくかということが、様々に模索されるようになってきました。

さきほど学校中心社会、教育イコール学校というふうになっている日本の現在の教育観というものをお話しましたが、国際的に見ると地域での学びの重要性が目立っています。学校教育はフォーマル教育という英語で表現しますが、フォーマルではなくて、ノンフォーマル、岡山ではESDの会議でこのノンフォーマルという言葉がかなり使われたと思います。ノンフォーマルというのは、非学校的、学校外という意味合い、あるいはフォーマル教育が教育課程に基づいてきちっとその中身が段階的組織的に決まっているということですので、ノンフォーマルは体系だって決められていない、つまり自由な学びの過程ということを意味しています。

そもそも日本の社会教育という言葉は、社会における組織的な教育活動と言われてきたので、まさに社会教育イコールのノンフォーマル教育のことだと私は思っています。その重要性があらためて東日本大震災、そして少子高齢化の日本の地域再生への願いの中で、認識されつつあるという動きをこの本の中で検討しています。

そして、歴史的にも高度成長期に公害などが広がって非常に苦しい思いをする住民の方々が闘ってこられた。先日亡くなられた石牟礼道子さんも水俣で、ずっとこの水俣病の苦悩を日本全体に発信し続けて非常に重要な活動をされた方だと思います。その後、農民の問題であるとか、原発の問題であるとかということで、あらためて抵抗する学びだけではなくて、それを予知したり地域の良さというものを皆で共有していく地元学的な学習もこの地域づくり学習として広がってきたとこの本の中で示しています。

これが、公共の教育機関だけではなくて、民間の住民のグループ、自由なグループ、この岡山では横文字もよく使うようですが、「ステークホルダー」、担い手という意味だと思いますが、その問題に直接関わる当事者というふうに捉えると、このステークホルダーは分かりやすいと思います。例えば、足下の公害問題で苦しむ、その地域の人が当事者になっている。そういう方々の声を他の、実際には公害の問題の危険にさらされていない人も親身に我が事として共有できるようになっていく。これがステークホルダーのネットワークという意味だと思うんです。こうしたところが、地域学習の中で今めざされていて、それを推進するコミュニティーのラーニングのセ

ンター（CLC）が世界各国で注目されるようになってきています。この岡山で開催された「ESD推進のための公民館—CLC国際会議」でも確認されてきていると思います。世界20カ国以上、700人近い方が世界各国から来訪して、それぞれの国のCLCについてお話をされています。

つまり岡山の公民館は、元々が中学区に密着していて、それぞれの地元の問題をしっかり皆で取り組む体制をつくってきたのですが、その公民館活動が地区で終わる、完結する活動ではなくて、この国際的なCLCの展開の流れの中に自分たちを位置づけた。そのこと自体が非常に先進的なことではないか思います。普通公民館は全国的な流れにも位置付いていないし、ましてや国際的な流れにも位置付いていない。自分たちの地域というところでは熱心にやっているけれども。そういうところから、岡山は一步も二歩も脱却して、非常に大きな視野でこの公民館の存在意義というものを国際連帯の中で捉えようとしている。これは本当に重要な先進的なとりくみであると思います。

（2）グローバルな社会の人类的課題としてのESD

そしてこのESD、理解するのはなかなか簡単ではないと思うのですが、一言で今、単に一つの国、国家の中での問題ではなく、国境を越えて何処の国民にとっても、何処の地域に住んでいる人にとっても共通な課題となっているということが、この「持続可能な社会の発展をめざす教育活動」(ESD)で言われていることです。1980年代頃から地球環境問題が言われてきています。今回の大雪ももしかすると地球環境問題の一つなのかもしれません。東京だけが騒ぎ出して、日本海側が何十倍も苦難な雪との闘いを強いられているところが十分に報道されていません。今朝の朝日新聞の声欄に「なんでメディアは一極集中で東京のことばかり騒ぐのか」という意見がでていました。東京は雪が5センチ降っただけで動かなくなる場所なんです。3メートルも降っている地域の苦難は想像もつかないわけですが、まさに今回の大雪も地球環境問題として、地域を越えて共に考えねばならないと思います。

そして、今までお話してきたように地域に格差貧困が広がっていること。一億総中流でみんなそこそこの暮らしをしているというイメージは、今の日本社会にはありません。そして、平和の問題も、はらはらする現実が私達の身近にすでに起きていますね。こうしたところを人类的課題としてしっかり考えていかなければ、これはあらためて広島からの発信を真剣に受け止めなければと思いますが、一たび戦争が起きれば、もう地球はない。人類はない。そういうところまで核戦争の危機が迫っているということを認識した時に、やはり足元からのESDというものを人类的課題として捉えるために、大きな視野と具体的な課題意識をつなげていく思考の豊かさと言いますか、思考の力、そういうものが今問われていると痛感いたします。

ユネスコは戦後ずっと、識字のために国際的に努力してきました。世界に10億人の非識字者、つまり文字の読み書きできない人たちがいる。それも東南アジアの女性達が非常にその比率が高いということで、成人教育のためには、まずは識字をしっかり取り組むというのが、学習権保障の内容です。今、国連やユネスコが、識字はもちろん基礎なわけですが、より普遍的に教育宣言をして人間らしく生きる権利を実現するための社会、持続可能な社会をどうつくるかという方向に大きく国際機関としての提言の方向性を発展、広げてきています。私たちができることには限りがあるわけですが、物事の視野として国境を越えた共通性というとならえ方がしっかりできる。そういう認識能力をもって、国際共同ネットワークを展望しながら足元というものを考えていかななくてはならない。環境問題ではグローバル、という言葉が以前から使われていま

す。グローバルというのは地球全体。ローカルというのは足元のこと。でも、環境問題というのはグローバルということなのだ、ということで、この言葉が環境問題に熱心な方々の専門的な N G O や N P O、研究者の提言として長いこと使われてきたのですが、それは本当に一人一人の問題なのだということを、あらためて岡山の E S D 世界会議で共通認識されたと思います。

そういう意味で、公民館の運営の担い手も基本的には住民自治に根差す、地域の団体とか利用者団体がまずは中核だと思いますが、併せてこうしたグローバルな視野を公民館運営に反映できるような N P O であったり国際交流組織であったり、そういうところの声を公民館運営の中に反映させていくような、そうした仕組みというものも非常に重要だと考えます。岡山では、ユネスコも含めて E S D の連絡協議会ができていて地区公民館もありますが、そうした新しいタイプの公民館運営のステークホルダー、ネットワークというものが日本の公民館のあり方としても広く問われているのではないのでしょうか。

東京は、実はまだまだそこまでいっていないのです。ようやく地域づくりに目を向け始めたという感じですね。英語は皆さんできるはずなんです、横文字の E S D は公民館活動にはまだ根を下ろしてきていない中で、岡山は地域づくりを足元で日常的にとりくみながら人類的な課題にチャレンジしている。グローバルな資源というものを、展望しておられるのではないかと。それがユネスコ学習都市 という形ですね、それで発信していこうとされている。これは本当に日本の今までの公民館活動にはない新しい一歩を切り拓かれているのではないかと、率直に敬意を表したいと思います。

岡山に来るついでということもあったのですが、私はこのところ何度か広島にも調査に伺っています。広島の公民館は民間の財団に委託されていますので、あまり公民館連絡協議会の組織の中で広島の活動は見えないと思いますが、行ってみて深く感銘を受けていることは、どの公民館も平和学習をしなければいけないという考え方があることです。必ず一館一回は、平和の活動を公民館活動に位置づけて、事業一覧に掲載しています。それはやはり、広島と長崎の歴史でありますし、その平和の学習を支えている市内の平和関係の団体だけで、150 もの団体がある。これが全て平和資料館とネットワークしているんです。公民館活動もいろんなかたちで媒介をしている。そして、ユネスコ協会や国際 N G O もこの平和学習と関わって、公民館活動にもネットワークされている。ユネスコ協会の方が公民館関係の運営委員とか館長になることも少なくないようです。広島と岡山、中国地方にふたつのグローバル都市が社会教育の分野で生まれようとしているのかもしれない。広島は国際平和都市の歩みと公民館は連動しています。岡山は国際環境文化都市をめざす公民館活動の活発な都市として、これから注目が集まるにちがいないと期待しています。

3. 生態系の保護と持続可能な社会をどう足元から構築するか

(1) ユネスコ「食文化創造都市」鶴岡における食文化の継承と食教育

少し他の地域のとりくみの具体例を紹介したいと思います。これも本の販売で扱っていただいています、一昨年に出した『地域文化が若者を育てる』という本です。この第3章の「人と地域をつなぐ食文化」で山形県庄内地方について述べています。岡山も食文化で一家言をもつ地域だと思いますが、山形県庄内地方の食の都、実はこれがユネスコの文化創造都市なんです。日本で初めて食文化の創造都市に認定されています。

本の表紙の美しい風景、これは庄内の月山が見える日本海の姿ですね。こういうところでの食文化をユネスコ都市に認定させた取り組みです。生態系を保護する持続可能な社会ということは、一体どういう切り口からどのように迫れるのかという問題です。後半、ご紹介するスローフードは、やはり食文化の国際団体なのですが、食という切り口にはまさに生物多様性そのものに迫る重要な方法だということが運動のミッションとなっています。食というのは人間にとって毎日食べているものですから、人間のエゴでどうにでもなる、どうにも変化してしまう、というものですね。それをイタリア人の言い方で言うと「人間は生かされている」。先ほどもご挨拶の中のお話がありましたけれども、人間は生物の生態系のなかでも生かされている、決して人間が主人で好き勝手、地球を切り裂いている、そういう存在であってはならないのだというふうに、この食の切り口から、まさにエコロジーというのに行き着いている。このユネスコ鶴岡とイタリアのスローフードと、そういう意味で一番人間にとって、毎日の身近な日常の行為と地球生態系というものが直結する問題であるということを鮮やかに示している実践例と言えらると思います。

そもそも鶴岡というところは、先ほどの写真で見たように、非常に美しいところで、海・山・里の大自然、日本の本来の自然はみなそうだと思いますが、そこで昔から培われてきた農業とか漁業の生産の方法があつて、特にこの庄内では、在来作物、これが江戸期から、庄内地方全体で150種類以上伝わっています。焼畑農業が伝統的に継承されている土地柄です。実はこれはイタリアから学生たちがやってきて、実習した農法のひとつなんです。底引き網、漁師のまかない料理、いろんな食材のおいしさを引き出す料理があつて、食文化がとても豊かです。その食文化も行事食であつたり、精進料理であつたり、郷土料理であつたりということで、さまざまな機会に共有し、住民と一緒に食べる食事がいろいろあるという地域です。

2000年代に食の都という地域政策が山形県庄内総合支庁から出されます。これはもう、経済再生のための政策として打ち出されたことです。山形県庄内地方の人口減少、大きな食料生産基地であるけれども、農家戸数は激減しています。山形・秋田・青森、本当に美しいところですがけれども、岡山から阪神につながる地域では考えられない、本当に東北の人口減少の深刻な問題を抱えた地域の一つで、そういう意味では県、自治体を挙げて食というものを切り口にして地域再生をしていこうという、もともとは政策ビジョンとして打ち出されてきたものです。

鶴岡はその中で自治体独自にユネスコ創造都市ネットワークに加盟して、ユネスコ食文化創造都市に認定されるという、これはやはり快挙だと思います。新潟と競つたと聞いています。新潟も本当に食の豊かなところですがけれども、色々工夫したことが多分、鶴岡が認められた理由なのではないかと思っています。

それで、この認定に至るまでのいろいろな工夫を聞いてみますと、まず立場の違い、食というのは作る人から食べる人までいろんな業界がつながっています。本来はこの生産者・流通・料理人・消費者、みなバラバラです。しかし、この食文化を推進するにあたって、立場の違い様々な人たちが一体になるネットワークが必要だということで、推進協議会ができています。この動きの少し前、1990年代くらいに、日本の漁業が危ないということで、水産業の研究者の方々が、日本の漁業をはたして21世紀に残せるのか、というそういう危機感から提言をしていて、その中に、生産から消費までをつなぐということを主張しています。つまり、魚を捕る人と食べる人が一緒に話し合える関係がないと駄目なのだと。実は漁協とか生協ではそういうことを一緒にやってきているんです。漁協のお母さんたちが商品開発をする。生協のお母さんたちが生魚を購入する立場でいろいろな注文を付ける。そういう関係が出来上がっていたわけですがけれども、鶴岡の場合

はそれを地域の単位ですべての関係者が一体になって知恵をしぼりあった。これがすごく大きな力になったと思います。

地域づくりという時に、今の人口減少の中でどこでも頭を抱えているのが雇用の問題です。若者が地元に戻りたい、けれども職が無い。雇用という現実はどう向き合うかということ抜きに地域再生は見通すことができないわけです。鶴岡では、本格的な食ビジネスを起こしていく

講座、そしてそこから雇用に創出する。すでに40人以上の雇用が実現していますけれども、こういうところで自治体あげてがんばってきたということがあります。

それから、この食文化については、忙しい母親がまず食文化から遠のいて、したがって子どもが全然地元の食文化の良さをわからないまま大きくなってしまっている現実があることも認識されています。このサイクルを断ち切るには、子どもにしっかり地元の食文化の良さを伝えていかなければいけないという考え方から「シェフと子どもたちのプロジェクト」が提案されました。

これは非常に興味深いプロジェクトです。学校給食でも地産地消というとりくみをやっていますが、全地域的な取り組みに広がっています。例えば鶴岡市立加茂水族館は年間70万人くらい観光客がやってくる人気のクラゲ水族館なんですけれども、ここが学博連携をして、小学校でいろんな魚の稚魚を育てる活動をしています。そして水族館にシェフが来て料理教室を子どもたちのために開くという、水族館の持つパワーをうまく連携させた取り組みになっています。今、鶴岡市はジオトープ、食のミュージアム、つまり庄内全域が食の博物館だ、という方法でまちづくりをしようという非常に大胆な打ち出し方をしています。公民館は社会教育施設ですけども、図書館・博物館も社会教育施設なんです。この社会教育施設がそれぞれの独自の力を発揮しながら、いかに連携して地域づくりの力にしていくかという一つの例として、この水族館の鶴岡における役割ということがあると思います。

この加茂水族館、実は衰退していてリニューアルもできないでどうしようか、廃館にしようか、というくらい落ち込んでいたようです。それを市民債で資金を集めて、2015年にリニューアルオープンしました。2017年に来館者200万人を達成しました。つまり年間70万人ですね。本当に魅力的な水族館に生まれ変わっています。

それから、食をテーマとする国際交流、これも環境ということを考える時本当に大事だと思うのですが、よその地域の人たちが違った価値観で取り組んでいることと交流できることが非常に重要だと思います。鶴岡はイタリアスローフード協会と提携して、毎年外国人の学生さんたちが、実習にやってきて食文化の実習、酒造り、焼畑農業、いろんな漁師の魚、漬物を実習して「面白い。美味しい、美味しい」と言っています。地元の人はあるのが当たり前で自分の地域がそんなにすごいものを持っているって普通気づかない方が多いのですが、「イタリア人に言われるんじやよほどすごいんだな」というふうになってくる。こういうことが国際交流の面白さではないかと



思うのですが、様々な取り組みが発展しています。

（２）鶴岡の“食の理想郷” 追及を支えるネットワークと次世代育成（食教育）

ネットワークということをご紹介しているのですが、主に役割を果たしている3つの、岡山流に言うとステークホルダーとなると思うんですけども、第一が農家レストラン。これは本当においしい、そしてたくさんのお客さんがやってくる。日経ランキング1位という農家レストランが何軒かあります。庄内地方全体としてグリーンツーリズムということを打ち出して、そして今、市民ガーデンという取り組みをある農家レストランがやっていて、これは食材生産の体験教育の場にしていきたいという、ここにも新しい学習が生まれています。

もう一つのステークホルダーとして、山形大学農学部在来作物研究会。これは日本でも他に例のない専門家の先進的な研究だそうなんですけれども、江戸期からの在来作物をずっと研究されていて、その保存のために多方面の関係者が在来作物のおいしさを評価できるようにしようということで、大学の公開講座「おしゃべりな畑」を開催して、在来作物案内人という学部認定資格を出しています。この資格を受けた方たちが、案内人として食の鶴岡を発信するいろんなレポーターになっておられます。

もう一つ大きな事業として、浜文化伝道師。これは県の水産課の資格認定事業なのですが、今150人くらい認定されていて、庄内地方の海岸で浜揚げされる魚の文化を料理教室を開いて伝えていく、ということで、料理教室の風景が写真で載っております。

私もあまり言える資格はないのですが、パックに入って、味噌煮になっているようなお魚を買うのが楽でいいんです。でも、この浜文化伝道師の方たちは、魚というもののおいしさを味わうには「一匹丸ごと調理しないとだめだよ」と教室で教えているのです。子どもたちは切り身しか見たことがないので、魚のきれっぱしが海で泳いでいるというふうに思っている。「うわあ、お魚ってこんなの」って感動するそうです。「どうやって泳ぐの」「どうやって食べるの」とか、すごい感動的な質問がいっぱいできてくるんです。そして、この浜文化伝道師の方が調理します。はらわたなどもこうやって料理するとおいしいんだよと、材料すべてを無駄にしない在来の調理法を伝えていく。

日本の水産業が21世紀に生き残れるかということを経験者が問題提起した背景には、やはり日本人が限りなく魚を食べなくなっている危機感ですね。結局魚が売れないから漁師の後を継ぐ人がいない。庄内は湾がないので漁業の規模は大きくありません。魚種は多いけれども生産高は低く、漁協の平均年齢はもう70歳に近い状況です。農業も同様です。生産の現場はそういう実態になっている。食べる側はコンビニで切って売っている野菜とか、味噌漬けのパックでチンすれば食べられる魚とかですませているので、生産者とつながるなんて遠い話です。最低限、焼き魚ぐらいしようとして私も思っているのですが、それで手を切ったりして情けない消費者です。

こういうふうに、立場の違う食材を生産する人々から消費する人々までお互いの悩み苦しき苦勞、そして継承してきた文化、そういうものを共有する共同体ですね。こうしたことが鶴岡の食文化創造都市の認定につながっているということが言えます。料理教室は公民館やコミセンで開かれていますし、男の料理教室みたいなものもたくさん広がっていて、浜文化伝道師と地域住民の学習活動は年間400講座くらい開かれています。内陸部でも教室が開かれて、この方達は魚を持って出向いています。東日本大震災の時は浜文化伝道師が10人以上、石巻で庄内の魚の炊出し、煮炊き料理を行ったそうです。これもまたお互いの連携として語り草になっています。

(3) イタリアのスローフード協会における「生物多様性」への視野

イタリアのスローフード協会については、4 月刊行予定でまだ本にはなっていないのですがチラシに入ってる編著『<食といのち>をひらく女性たち』の9章に書きました。女性たちが「食」という領域で歴史的に大きな役割を果たしてきているということに注目した食文化運動史の本です。執筆者も全員女性というユニークな本です。

スローフード協会は、1980年代半ばにトリノ近郊の小さな町ブラで集まった青年グループが発祥です。ARCIという文化レクレーションサークルがあり、そこから誕生した「味わう」ということを楽しもうというサークルが出发点です。美味しい食事をみんなで団らんしながら楽しむライフスタイル。どうしてスローフードと名付けられたかということ、イタリアのローマにマクドナルド、ファストフードが進出してきた。「イタリアにファストフードは似合わない。俺たちはスローフードだ」。日本人はマクドナルド大好き人間になっている面がかなりありますけど、イタリアはそれを拒絶する文化があり、数年のうちに国際的な共感を得て、スローフードというかたちで世界に発信されていった。

消費者が生産者と対話することが大事、食品添加物に何があるのかちゃんと勉強する必要性、生産物の環境とか地域のつながりが大事だとか、さまざまな食のとらえ方を主張しながら大規模な食の祭典をおこない、地域支部を広げつつ、1986年にスローフード協会が誕生して30年になります。「すべての人にとってのおいしい、きれい、正しい食への権利、五感で感じるおいしさ、生産・流通・消費過程の環境的持続性、食のネットワークに属するすべての人の尊厳、社会的正義の尊重」ということを掲げていて、今支部がイタリアに270、会員が5万5千人の非営利団体です。

このスローフード協会は日本にも組織があり、現在160カ国、1500の世界的な地域支部、10万人の会員、100万人の支援者が関わるスローフード・インターナショナルの運動を展開しています。短期間に国際グローバル運動になりました。本部の様子は私が撮った写真なのですが、かたつむりがシンボルです。「ゆっくり行こうよ」という感性、これが世界を今動かしているわけですね。

そしてスローフード協会が正規の私立大学を設立しました。団体が設置者で州の支援がある大学で、食科学大学という名称です。自治体の支援を受けて貴族の館を活用して世界で唯一の高等教育で食科学というものを教える学校で、いろいろな学際領域の教科がカリキュラムとなっています。経済学・経営学・社会学・栄養学などなど。幅広い学際的な学習をしていて、学部というのはイタリアの場合3年間なのですが、3年間の間に15回国内外での実習。1回の実習が1週間なので15週間実習が必修単位になっています。世界中に実習先がありますが、そのひとつに日本の鶴岡が選ばれています。同志社大学、立命館大学とも連携しています。そういったことで日本は彼らから見ても非常に重要な食文化を学べる国になっているということです。

(4) スローフード教育宣言

「スローフード教育宣言」というのが2010年にまとめられているのですが、とても深く豊かな教育原理だと思います。五感の教育、つまり理科で生物を学ぶ、体育で保健で体の仕組みを学んで、家庭科で栄養を学ぶ。ばらばらの知識では「食」は分からない。「食」というものは五感で感じるものなのだというのが、イタリア人らしい主張です。

それでこの五感で感じる教育を行うために、スローフード協会が全国に地域菜園と学校菜園を推進して、今イタリア国内に500箇所くらい設置されています。そしてもうひとつ重要なのが世界の生物多様性を守ろうという運動です。生物多様性が保全されている地域としてアフリカに注目して、アフリカに1万の菜園をとという世界的なボランティア運動をしています。今3500の菜園がアフリカにすでに実現しているんです。それこそ国連やユネスコの支援を受けて資金も調達しながら作られている。

この菜園の中で何を子ども達は五感で学ぶのかということが、この14の項目にまとめられています。とても感動する文章で、ゴチになっているところは元々太字で強調されている原文です。私の本にも掲載しましたが、ここでご紹介したいと思います。

- ① **喜び**であり、楽しい共生の機会であり、感性豊かに軽快に生きること。
- ② **ゆっくり**という価値を教え、自他のリズムを尊重する。
- ③ 為すことを学ぶ。直接の**経験**は学習を育み、強める。
- ④ 文化、知識、能力、見方の**多様性**を評価する。
- ⑤ 必要性を認識し、各自の興味や**動機**を刺激する。
- ⑥ 教科学習と多様な実態を関連付け、**総合性**のなかで諸課題にむきあう。
- ⑦ 理解し、疑問をもつ**時間**をとり、自分の見方を掘り下げる。
- ⑧ 対話し、自由に意見を述べ、**協力**し、相互に傾聴しながら**参加**を励ます。
- ⑨ **認知、経験、情緒、感情**の次元を巻き込んだ内面的過程である。
- ⑩ 地域にねがす**文脈**で記憶、地域の知と文化を評価することで自らを育くむ。
- ⑪ **共同体**の意識を強め地域のネットワークを支える。
- ⑫ 自分の役割、行動について**自覚**を深める。
- ⑬ **好奇心**をかきたて、洞察力と**批判精神**を鍛える。
- ⑭ より責任ある新しい思考と態度を生みだし、変革を推進する。

⑩で述べていることですが、それぞれの地域の固有の文化的な意味・意義がしっかり分かるということ、この記憶ということを非常に強調していることが印象的です。記憶ということは、つまり伝承ということです。このスローフードの科学の中で文化人類学、日本でいう民俗学ですけども、すごく重視されていて在来作物のお百姓さんの江戸時代からの製法を記録して聞き取ってそれをちゃんとカタログにまとめている。そういう記憶と収集の活動がこの分野で大変重視されているんです。

この宣言を書いたのは小学校の女性の教員が中心です。イタリアの小学校は8~9割は女性の先生なんです、その方たちの中の委員会です実際の菜園の実践を基にしてこれがまとめられました。訳は私の訳なので曖昧かもしれないのですが、このような感性と知性、理性と参加とお互いのつながりを重視した学習がこの食ということをめぐるってイタリア全土で進んでいる。世界に広がろうとしていることが伝わってくると思います。

4. ESDの推進から見えてくる地平

まとめに入りたいと思います。こんなふうな事例も含めて岡山でESDということ大きな目標に据えたという公民館の活動の重要な一歩について、私なりに評価しながらお話しをさせていただきました。そこから今後見えてくる展望をどんなふうと考えていったらいいのか。分科会に向けての問題の投げかけにもなることですが、3点まとめとして申し上げたいと思います。



まず第一に、ローカルな地域の現実。これはあくまでも基本的なことだと思う

のですが、そこで子どもから高齢者まで、多世代ということを示し上げてきたわけですが、体験というものをいろいろな年齢層で共有するというのが基本的なESDの学習として可能であるし、なくてはならないということだと思います。足元の地域資源、これは民族であったり生態系であったり、産業、暮らし、文化、人の育ち、いろんな地域独自のものがあると思いますが、そのこと自体を学習の材料にする。つまり教科書ではないんです。教科書的な知識ではなくてお互いにフィールドワークをしたり、語り合ったりしてはじめてそれが出てくるということかと思うのですが、それによって豊かな生き方を共有していくという学び、地域に根差した学びが大切だと思います。

合わせて多様性と多文化性という点です。国際交流の重要性ということもいろんな形で感じられると思いますが、今この地域に在住している方々、あるいはよそから交流でやってくる方々。あるいは自分たちがよそに行って経験する、そういうふうなダイナミックな交流を作っていくことがローカルからグローバルへという方向性の学びを促すと思います。

そして第二に、グローバルな視野で一緒に討論する力が若者の未来を拓くということです。今日は、フォーマルな学校教育に対して、ノンフォーマル、地域社会の学習というものが若者を育て、子ども育てには欠かせないことをお話しました。高度成長期まで、40年くらい前までは伝統的なコミュニティの中で青年団、若者組というのは決定的な存在感、そして決定権を持っていました。何かを地元でやろうとしたときに青年団がウンと言ってくれないとその地域が動かないという時代があったわけです。青年団がよしやろうということで祭りが活発になったとか、新しい取り組みが始まったという地域の歴史があるわけですが、そういうふうな将来を責任もって担う自覚をもった若者世代というその存在の形をどう地域社会に継承していくのかということが、いま日本の社会構造全体のなかで問われている非常に大きな問題です。

学校化された社会の中では、若者は結局序列化されてしまいます。狭い物差しで序列化されています。テストの成績とか就職の活動で要領よくふるまえるかどうかとか、そういうことで若者は自信を失ったりしているわけですが、若者の持っている力ってそんなことで評価できるものではないと思います。学校化された社会に入っている若者と、地元でいろいろな事を行っている若者との交流が減ってしまったことも問題です。そういう意味では若者世代の中での連帯感という

か、一体感というか、そういうところも課題だと思います。

自己決定権と社会的有用感。心理学の言葉ですけれども、現代の若者の課題です。今の若者世代は、自分は社会のなかで役立つのかなあ、役立たないつまらない人間だなあ、とってしまった若者が非常に多いんです。それは先ほど言ったように、すごく狭い物差しで測られているからなんだと思います。そうではなくて、「君のこういうところはこういう形ですごく力になるんだよ」と言われることで見違えるほどの若者の元気とかパワーが出てくる。そういう経験を学校ではやっぱり与えられないわけです。学校は評価の基準が決まっていますから。

私は読売教育賞の審査員をしているんですけども、今年大阪の堺の工業高校の夜間課程の先生の報告が地域社会教育部門の最優秀賞になりました。もう本当に社会的有用感のない若者たちがこの夜間課程では大半なのですが、先生たちの努力で夜間高校の生徒たちがまちのなかで活躍する場所を作った。小学生の就業体験のアドバイザーみたいなことを高校生がする。そして職人さんからモノ作りを学ぶ。それによって鍛えられた姿が描かれていて素晴らしい報告です。ネットからダウンロードできますので是非読んでいただきたいと思います。

自己決定権はもちろんなのですが、社会的有用感ということを意識した若者の未来に向けての力をいかに育むかという課題、これはやはりグローバルという点と、学校ではできないノンフォーマルな社会教育の力ということで注目すべき方向性ではないかと思います。公民館であればいろんな若者の活躍できる場面を作ることができるわけですね。その場面に来てもらうために学校の先生ともしっかり話し合う。場合によってはボランティアの内申評価が高くなる。さきほど取り上げた本の中でも飯田の人形劇のとりくみを紹介していますが、飯田の人形劇フェスティバルでボランティアを高校生から募集しているんです。「なんでボランティアやることになったの」と聞くと「内申点が上がるからだよ」というわけです。これでいいんですね。やってみたら面白いこといっぱいあるんだ、もうやめられなくなってるっていう。そういうふうにして社会とあらためて繋がるきっかけをもつことが重要です。

第三に、国際環境文化都市としてのまちづくりということですが、岡山はおそらくそれをめざしておられるだろうと思いますが、国際都市となるための条件というものがあると私は思います。それは外国人がきておもしろいと思うということなんですけれども、それは地域からの発信力と表現力だと思います。あるいは何かが媒介をして発信し交流できる。鶴岡の例もその一つだと思いますし、その国際都市の存在を支えている多様な団体、ボランティアもそうであると思います。特に若者の場合で言うと職業の選択とか、場合によっては起業の力とか、そういうところも若者は学び取っていきますので、国際交流というのは非常に重要だと思います。価値観とか知識のレベルだけではなくて、自分はどういう場所でどういうふうに生きていくかという、時には経済的な展望を含めてということですけども、そういうふうなところも国際的な交流の中で様々なきっかけや関係性を生み出すことができるのではないかと思います。

鶴岡も、国際交流都市として発信して、料理人がパリへ行って料理作って見せてということだけでもすごい経験になります。飯田も公民館が中心となって人形劇フェスタを40年続けてきました。世界各国から人形劇団がやってきて人形劇の国際



交流都市になっているわけです。来週私は飯田の公民館大会第 55 回へ人形劇 40 年の歩みと公民館の役割についてお話しすることになっておりますけれども、国際的な劇団がたくさん飯田にやってくることで、たとえば英語のボランティア活動とか、ガイドさんとか、ホームページとか、音響とかいろんな分野で若者の力が国際水準でよしやろうということになっていくんです。舞台を広げるということの意味が非常に実感できます。

以上 3 つのまとめを問題提起させていただきました。これに尽きるものではないと思いますけれども、ESD というものにこだわって新しい一歩を踏み出していくいくつかのポイントになるようなことを、午後の分科会でも皆さんで話し合っ、積み重ねられている実践の意味とその実践の持つ未来思考的な公民館にしていくという方向性を共有することが重要だと思います。ぜひ 37 館の岡山の公民館活動の実績を将来につなげ、日本はもちろん国際社会に発信していただきたいということを、これは日本の社会教育の発展のためにもお願いしたいと思っています。

長時間ご清聴いただきありがとうございました。

分科会



第1分科会 地域の子育て支援

子どもも大人も育ちあう～孤育てから地域でつながる子育て～

◆趣旨

岡山市の各公民館では、さまざまな活動をとおして、子どもと子育て中の人、子育てを応援したい人がつながり、お互いに学び合いながら成長しています。地域で子育てって、どうしたらいいの？私にも何かできる？子どもたちの明るい未来のために今からできることをいっしょに考えます。今回は発達障害をテーマに地域の子育て支援を考えます。

◆実践報告のテーマと発表者

①発達障がい定例座談会「あおぞら」～学びから広がる新たなつながり～

岡西公民館職員：小谷 文子、発達障がい定例座談会「あおぞら」参加者

②イチから知りたい！発達障害～話すことでホッとできるゆるやかな学びの場～

操南公民館職員：万代 賛誉

◆流れ

1. 事例発表
2. グループワーク
 - (1) 自己紹介
 - (2) 話し合い
 - ①発達障害についてあなたが持つイメージは？
 - ②発達障害のどんなことが知りたいか？
 - (3) 各グループの意見を共有
3. 助言者からの意見



◆話し合われたこと

保護者、支援者、関心のある人と幅広い参加があり、グループ構成によっては話し合いテーマを「発達障害をよく知らない人が持つイメージ」「知らない人に向けて発達障害のどんなこと知ってもらいたいか」などと工夫して話し合った。どのグループも非常に活発に話し合いが行われ、当初の予定より話し合いの時間を延ばすほどであった。

テーマ①については、「できる、できないの落差が大きい」「過敏」「こだわりが強い」「コミュニケーションが取りにくい」などの意見多く出される一方、「個性豊か」「好きなことへの集中力がすごい」「まじめ」といったプラス側面の意見もあった。

テーマ②については、「そもそも発達障害とは」「接し方、関わり方、言葉のかけ方、対応の仕方」などのほか、「相談や支援先、制度について」知りたいという意見も多く出された。

◆議論のまとめと今後への課題

助言者から「発達障害の人のことを理解するには共に過ごす時間を長くすること。そして発達障害を理解するというよりその人を理解し、最終的にその子が幸せになることが目標。そのためには、どんなふうに育ってきたか、そしてその子が主人公になれる場所があることが大切である。」と話があったが、さまざまな立場の人が集い、語り合い、共有しつながること、それこそ公民館活動をとおして実現できることである。その上で、地域の子育て支援をはじめとする様々な地域活動に取り組むうえで多様な立場の人が集い、語り合うベースづくりが非常に重要だと実感した。

◆助言者の感想

臨床心理士・NPO 法人岡山県自閉症協会理事 土岐 淑子

第一分科会では、「孤育てから地域の子育て」の取り組みの一環として、「発達障害」をテーマにした2題の貴重な事例発表がありました。岡西公民館の〈発達障がい定例座談会あおぞら〉と、操南公民館の6年目になる講座〈イチから知りたい発達障害〉で、市民と職員で工夫を重ね実践されてきたものでした。

発達障害は、マスメディアでも取り上げられ、一般に知られる機会が増えましたが、特性の理解や障害の意味についての理解は十分とは言えません。分科会では、其々の参加者がもつ発達障害の「イメージ」を共有しあい、「知りたいこと」について熱心に話し合われました。

発達障害の特性の現れ方は環境に大きく影響されるため、画一的に理解しようとするのではなく、知識を得るにとどまらず、知り合い、わかり合う機会を持つことが大切です。理解はともに過ごす時間によって深まるもの。そのための出会いの仕掛けが必要です。

公民館が仕掛け人となって、「場」が作られ、学びと理解が地域にゆるやかに広がっていく、その先には多様な生き方が認め合える社会があると思える分科会でした。

◆分科会運営委員（市民）の感想

万富公民館利用者 岡本 美枝

万富公民館で子育ての講座に関わらせていただいているご縁で、この度の第一回岡山市立公民館大会に市民運営委員として参加しました。

大会当日の分科会では参加者の発達障害についての思いをグループワークの中で活発に出し合い、更に助言者の土岐淑子先生からは、「発達障害のある人との関わり方で重要なことは、その人と出会って、共に過ごす時間をとり、目の前にいるその人を理解すること。」という助言をいただきました。私は今まで理屈や知識だけで発達障害を理解しようとしていました。公民館では、世代を超えた多くの人と出会います。これからは、その人の内面を見る様に心掛けようと思いました。

最後に、公民館は、地域の人が出会って、お互いを分かり合える場、色々な人と活動して自分を発揮できる場です。これからも利用者同士が学びあい、感動しあっていきたいと思います。

◆分科会運営委員（職員）の感想

中央公民館職員 森川 千裕

分科会の開催まで、職員と市民の運営委員で何度も話し合いの場を持ち、準備をしてきました。テーマは昨年と同じですが、「今年は発達障害についてもっと知りたい！」という意見が多く、今回の事例発表とグループワークを計画しました。

当日は、グループワークの時間が足りないほど大変盛り上がりました。参加者のみなさんの実体験や思いを聴かせてもらいましたが、どれもとても印象的で、ネットや本で調べることも大事ですが、人と話して得るものは大きいと改めて感じました。そして、一生懸命話してくださる気持ちが温かく、みなさんが公民館を好きでいてくださっていることが感じられ、とても嬉しかったです。さらに今年は助言者の先生に分科会を締めくくっていただいたことで、より深い学びにつながりました。市民の方も、職員も今回得たものを地元を持ち帰り、地域の子育て支援について考え、今後の活動に活かしていきたいと思います。

第2分科会 防災・減災

御津を守るのは私たち。～御津防災キャンプの取り組みから～

◆趣旨

岡山市では地域住民の防災力向上を図るため、防災キャンプが地域ごとに行われています。その中で御津地域では中高生がリーダーとして参加し、運営の一翼を担っています。この分科会ではその中高生たちが体験した活動の発表を通して、自助・公助・共助による減災を目指して、市民一人一人がどのように取り組めばよいかを考えます。

◆実践報告のテーマと発表者

- ・岡山県立岡山御津高等学校：河田 紗穂、篠田 みずき、堀田 成美
- ・御津防災キャンプ実行委員会：藤井 賢一

◆流れ

岡山御津高校の生徒3名が防災キャンプに参加した体験を寸劇で披露し、御津防災キャンプ実行委員が御津地域の防災の取り組みを発表した。発表の中で、人が倒れた時の応急手当の実践も行った。事例発表の後は、参加者52人が7グループに分かれてワークショップを行った。グループを高校3年生のクラスに見立て、学級委員長（進行係）と副委員長（書記）を選出し、参加者が高校生になりきって、「文化祭の防災展示啓発コーナー」の企画書を作成した。ワークショップの過程でグループごとに、アルファ米をビニール袋や新聞紙で作った皿を使って工夫しながら分けて試食し、企画のアイデアに活かした。最後に、完成した企画書をグループごとに発表した。発表を聞いて、各自が一番いいと思う企画書にシールを貼り、シールの数が多かった上位3位のグループに所属する高校生と助言者からコメントをいただき、みんなで共有した。

◆話し合われたこと

御津高校生徒の寸劇は、最初は全く防災に関心がなかった高校生が、先生の勧めで防災リーダーとして防災キャンプに参加し、地域と関わる大切さを学び、将来の目標ができるまでに心境が変化していった様子を描いたものだった。この発表を受けて、全く防災に関心のない若者に関心をもってもらうにはどうすればよいか、そのきっかけとなるような文化祭での啓発コーナーを、各グループで議論しながら企画した。若者の考えをつかむため、グループに一人以上の現役中高生に入ってもらった。全てのグループが、防災・減災に取り組むために工夫を凝らし、展示だけでなく体験やゲームを盛り込んだ内容の企画書を作り上げた。

◆議論のまとめと今後への課題

平成29年度「岡山市立中央高等学校文化祭」企画書提出に向け、御津高校・岡山後楽館高校の生徒も加わりグループ討議をした。「防災屋敷」・「みんなで学ぼうキラキラBO—SAI」・「竹内涼真と握手会～ポイントをあつめよう～」・「命が助かる～避難袋とは?～」・「防災は未完成 継続できる防災をめざそう」・「知って楽しむ防災教室」・「あなたは無事に家族を助けられるか?」の各タイトルが話し合いで決定され、実施計画をめぐって熱心に討議された。大人だけでは思いつかないような新鮮な企画もあり、地域での活動に即対応可能な内容であった。どのグループも日ごろの防災・減災の取組が体験として生きており、展示だけではなく実際の災害を想定しての疑似体験ができる工夫があった。訓練に、より多くの人を集めるには、若者の意見の吸収が必要なことも再認識できた。

今後の課題としては、御津の発表のように、“命を守る地域の輪” 中高生も大活躍!となるような若者リーダーをそれぞれの地域でどう育てるか。また、幅広い年齢層の訓練参加や、家庭での減災・防災意識を定着させるための、より効果的な取り組みの構築など、体験の積み重ねの必要性が確認された。



◆助言者の感想

NPO「まちづくり推進機構岡山」理事 徳田 恭子

災害の少ない岡山市でこのような中央公民館主催の「防災・減災」の分科会を開催されたことは素晴らしい。最初に御津地区の中高生と地域住民による寸劇の事例紹介があり「心肺蘇生やAED（自動体外式除細動器）などの応急手当」を分かりやすく演じていた。

次に参加者全員が高校生になり文化祭で防災に関する展示の企画書を作るという設定でワークショップを行った。各クラスから企画の発表があったが、全てのクラスが体験を通じて防災力を高め、実践できる内容となっていて評価できる。

また防災・減災に関心の薄い中高生が分科会に参加し、皆さんと一緒に企画・感想・投票したことは斬新である。今後、各地区の災キャンプに中高生の参加を呼びかけ、中高生がリーダーとして運営の一部を担うようになれば、地域の防災力は大幅に増すであろう。

後半にアルファ米を参加者が箸、スプーン等使わないで工夫して食べることに挑戦していたが実践的で良かった。

南海トラフ巨大地震が近々発生すると言われている現在、このような分科会を公民館職員と市民が合同で開催する取り組みは自助・共助のための実践的な活動に繋がり、大変有意義である。

◆分科会運営委員（市民）の感想

佐藤 誠

防災・減災分科会に参加して

事例発表は岡山御津高等学校生徒の寸劇で、教師からすすめられ講習会に参加して、自分達の郷土を守るリーダーとしてやりがいを見つけ頑張る決意が表れていた。参加者の中から突然大きな叫び声が上がリ、倒れた。何かと見ていると、先ほどの寸劇の生徒達が「皆さん落ち着いてください」と駆け寄り、心肺蘇生の 救急処置を施した。突然の演出には驚いた。こんなことも実際に起こりうることなので、これも防災キャンプに必要ななと思った。

ワークショップでは「高校の文化祭でどんな防災の展示啓発コーナーを作るか」というテーマで、7グループにわかれて内容を考えた。発表後の採点では、上位の内容は今回参加の学生主導の、ユーモアを交えた人気俳優のサインをもらえる特典や、煙の中で被害者を救出する体験であった。そうか、若者や市民の気持ちをとらえるのは大きな副賞と人助けが人を集めるコツだったのかと、いまさらに意識を変えさせられた。これからの活動はそれらを参考に推進していこうと教えてもらった1日だった。今回は、各グループに学生の参加があり新鮮な若者の意見が聞けたことはよかった。

◆分科会運営委員（職員）の感想

山南公民館職員 清水 申美

担当館職員での準備会、市民の方を交えた運営委員会を開催し、分科会開催に向けて話し合いを重ねました。特にワークショップの内容については、助言者の徳田先生のアドバイスを受け、より充実したものにするために何度も修正を行い、当日を迎えました。

この分科会ならではの、高校生による寸劇は、防災キャンプ体験前後の心の動きを分かりやすく表現し、堂々と演じた素晴らしいものでした。このような若者が地域でたくさん育ってくれると頼もしく思います。公民館が地域の方々と共に中高生へ活躍の場を提供し、その成長を支援することの必要性、また高校生を巻き込んで防災をテーマにまちづくりを進めていくことの重要性を再確認しました。

運営に関わってくださった全ての皆様の協力により作り上げることができた分科会であり、心から感謝します。高校生からパワーをもらった分科会でした。

第3分科会 地域福祉

住みなれた地域で自分らしく生き生きと暮らせるまちづくり

◆趣旨

岡山市における65歳以上の高齢者人口は18万人を超え、市民の4人に1人が高齢者という「超高齢社会」を迎えています。高齢者が孤立しないように気軽に集まることができるカフェやサロンの活動、地域の中で楽しく継続的に行っている見守り活動の実践をとおして、地域の力を掘り起しながら、支え合い、自分らしく生き生きと暮らせる地域をどうつくっていくかを考えます。

◆実践報告のテーマと発表者

- ①人と地球に優しい、地域コミュニケーションづくり～ESDオープンカフェ三木～
松本晃昭（あかれんがクラブ）、大森美幸（東公民館職員）
- ②サロン交流会～小地域で自発的に立ち上がったサロン活動と公民館との関わり～
船守敬子（津高グリーンハイツふれあいサロン世話人）、宍戸總子（横井ほがらかサロン代表）、花房聡子（津高公民館職員）
- ③福祉委員・援護委員による見守り活動
本澤美夜子（富山学区福泊町内会）

◆流れ

3つの事例発表の後、休憩をはさんで助言者の事例発表を聞いたのち、7グループに分かれ、「地域でどんな活動ができるか、したいか」「公民館の役割や期待」をテーマに話し合いを行い、各グループからどのような意見交換がされたか、報告した。



◆話し合われたこと

テーマ①「地域でどんな活動ができるか、したいか」

- ・スタッフの高齢化、次世代の育成。
- ・若い人たちとの交流。次世代の担い手育成につながる。
- ・年をとっても住みやすいまちづくり。いろいろな立場の人たちが意見を出し合える場をつくる。
- ・サロンの充実、身近な場所を高齢者の居場所に。
- ・高齢者の見守り活動
- ・先進地への視察等の学び。

テーマ②「公民館の役割や期待」

- ・地域への情報発信、情報交換の場。広報に工夫が必要。若者の参加を増やすための取り組みが必要。若い世代と高齢者が話し合えるような、例えば「公民館居酒屋」ができるとよい。
- ・地域貢献できる人を育成できる場。
 - ・公民館は地域のキーステーションに。公民館で出会った人たちを地域へつなげ、広げていく役割。活動のコーディネーター役をつとめてほしい。

◆議論のまとめと今後への課題

どのグループも活発に意見交換がなされた。地域が違っても共通の課題も多く、活動の担い手の高齢化、次の担い手の発掘・育成に苦慮している、交通の便が悪く活動するにも移動手段がない、男性の参加が少ない、若い世代の参画が課題といった声が多く聞かれた。

話をする中で「地域でどんな活動ができるか、したいか」ということが「公民館の役割や期待」につながっていることを実感した。また、若い世代の助言者が地域づくりに関わっている活動紹介から、若者の参画が今後必要であるといったヒントが得られた。今後も、それぞれの地域で活動していた人が継続してつながり、事例から学んだり意見交換したりすることが必要であると感じた。

◆助言者の感想

みんなの孫プロジェクト 代表 水柿 大地

高齢化や過疎化、人の繋がり希薄化は日本中のどこを切り取ってもその声が聞かれるほど、今日では当たり前の地域の課題となってきました。その課題を解決する上で、地域の文化や暮らしに寄り添って立つ公民館が果たせる役割というのは決して小さいものではありません。岡山市内各地の公民館が一堂に会して旗振りをし、地域での実践事例を意欲ある地域住民同士が学び合うことができる場を創出されたことは、これからの地域づくりを進めていく上でも大変意義深いものであったと思います。私が担当させていただいた第三分科会「地域福祉」で事例発表をされた3団体の方も素晴らしかったですが、参加された皆さんからも敬意をもって話を聞く姿勢が見られたことはうれしいものでした。

実践からくる経験談は、地域同士、住民同士が共に意欲や実践力を高め合うための肥しになると私は考えています。公民館大会は公民館に関わる住民、スタッフが共に学び合う姿が結集していた素晴らしい場でした。来年以降、さらに良い場がつけられ、関わりの輪が広がっていくことを期待しております。

◆分科会運営委員（市民）の感想

中山学区連合町内会長 伊庭紘一

「住みなれた地域で自分らしく生き生きと暮らせるまちづくり」をテーマとし、地域福祉に関わる3つの事例発表とその後のワークショップは、地域で高齢者福祉活動に取り組んでいる者として、大変興味深く聞かせてもらいました。

事例発表の「ESDオープンカフェ三木（さんもく）」「津高地域サロン交流会」「福祉委員・救護委員による見守り活動」は、いずれの活動も高齢化が進展し超高齢社会の現在に欠かすことのできない生活支援や介護予防であり、発表内容からそれぞれの地域の抱えている課題の解決に向け本気で取り組んでいる姿を伺うことができました。

ワークショップでは、①どんな活動ができるか・したいか②公民館の役割や公民館への期待を話しあいましたが、①については特に目新しいものはなかったように思う。②については私個人として、地域の連帯感が薄れ地域コミュニティの低下が進んでいる現在、「公民館が協働の拠点となり、地域の各種団体を繋げていくコーディネーターの役割」を期待したいと思っています。

最後に、分科会の準備から運営に携わってくださった公民館職員のみなさんご苦労さまでした。

◆分科会運営委員（職員）の感想

上道公民館職員 片山 るみ

一宮、福田、津高、上道、東、富山、高島、京山の公民館職員と市民運営委員で分科会の運営を担当しました。テーマや発表事例について打合せを重ねる中で、お互いの活動について理解が深まり、地域を越えた新たなつながりもできました。

当日は狭い会場に多くの参加者が入ることになり、どうなることかと思いましたが、発表する方々のお人柄にも助けられ、温かく和やかな雰囲気の方科会となりました。普段からそれぞれの地域で活動されている参加者がほとんどなので、グループワークでも活発な議論が行われていました。

事例発表3本と助言者の活動紹介だけでも盛り沢山の内容で、グループワークの時間が不足気味だったのは残念でしたが、「住みなれた地域で自分らしく生き生きと暮らせるまちづくり」に向けて、人や情報が集まる場であり、つなぐ機能を担う公民館への期待が寄せられ、充実した分科会になったと思います。

第4分科会 若者の参画

若者が躍動する地域社会をどう創るか

◆趣旨

若者のもつ構想力や行動力を、資源としてどう地域社会に活かすのか。そして、若者が地域の未来をつくる主役となるために、どんな居場所やつながる機会があるのか。若者たちと語り合いながら、若者が躍動する地域社会をどう創るかを考えます。

◆実践報告のテーマと発表者

- ・世代を超えた地域住民が集い交流できる場づくり
地域活性化団体Mingle（ミングル）代表：西山 杏美
- ・「らっかんランチ食堂」～地域をつなぐ後楽館の挑戦～
岡山市立後楽館高校有志

◆流れ

- ・公民館とつながりを持って積極的に活動している若者グループ（地域活性化団体Mingle）と、これから地域や公民館と一緒につながりを強めながら活動を広げていきたいと思っている若者グループ（岡山市立後楽館高校）の2グループからの実践を聞いた後、【若者が地域社会と関わることで、どんな利点（イイコト）があるのか】をテーマに、「えんたくん」を使ってグループに分かれて話し合い共有した。

◆話し合われたこと

- ・中高生、大学生の参加もあり、各グループでそれぞれの思いや意見が出された。肯定的で未来へ向けての公民館の役割や、若者が躍動する地域社会を作っていくにはどんなことが大切なのかを共有することができた。
 - *ボランティア活動から地域や公民館に関わる人が多い。中高生の活躍の場となり、学校外での社会との関わりを作ることができる。学校と地域とのつなぎ役として公民館の役割が期待される。
 - *公民館では地域の様々な年代の人と関わりを持ったり、その人の人生を垣間見たりすることができる。そのことにより、若者が社会に出る前に多様な人とのコミュニケーション術を身に付けたり、違う価値観に出会えたり、自分のライフプランを考えるヒントを得ることができる。
→人生の可能性が広がる。
 - *自分達の思いや考えを形にすることが公民館ではできる。自己実現の場のひとつになる。役割があり担い手として参画できる居心地のいい場所に公民館や地域がなることで、若者はそれを忘れず次世代へつないでいくことができる。
 - *地域の人は若者が頑張る姿を見てエネルギーをもらい元気になることができる。

*そもそも若者にとってイイコトと地域にとってイイコトは同じなのか？

*オープンなつながりや交流が必要。若者世代が大学や雇用で地域外に出て行くことも多いが、地元に戻ってくる人もいる。地域外で学んだことや経験したことを地元で活かすことでいろいろな活動が広がっていく=E S D的

◆議論のまとめと今後への課題

そもそも若者にとって地域社会で関わることの利点（イイコト）と地域にとっての利点が本当にマッチングしているのか？ということが最終的に議論の中心となった。何かを企画する時、若者と地域それぞれに理想を描いてもらい、それをマッチングさせアクションへつなげることが大切。そこに公民館や地域がどう関わっていけるかが今後の課題と考える。そして、公民館活動の中で「若者の参画」は数年来言われていることで、それがまだ実現していないのはなぜなのか？公民館に中高生が安心して雑談ができるたまり場を作ったり、参加しかさせていない大人ではなく、共に参画できる大人になっていくことが必要でなはいかとの提案も出された。

◆助言者の感想

中国学園大学子ども学部講師 野村泰介

第4分科会「若者の参画」でのグループワークの共通テーマが「若者が地域社会と関わる事で、どんな利点（イイコト）があるのか」ということで、参加者から様々な意見が出されていました。その中で印象的だったのが、若者と地域社会の担い手（高齢者？）とでは「イイコト」の定義が違うのではないかと、というもの。若者の地域に対するニーズと、地域社会の担い手が若者に期待することがズレていないか。公民館だけでなく、地域全体でこの議論をしっかりと深める必要があるのではないかと思います。私は日ごろ、多くの中高生と接する機会が多いのですが、地域と関わりたいと考えている若者は一定数います。彼らの「何かやりたい！」という気持ちを引き出すコーディネーターと、それを実現させる資源（場所・資金）を地域全体で提供できる仕組みを整えば、「若者が躍動する地域社会の創造」は実現するのではないのでしょうか。

◆分科会運営委員（市民）の感想

灘崎公民館利用者 木山勝之

私は灘崎公民館に連れてこられて青少年育成のお手伝いをしているボランティア1年生です。具体的には灘中のボランティア組織「チーム灘」の生徒さんをサポートすることが中心で、今回の参加は研修の意味だったと思います。その研修がうまくいったか・・・、グループトークでピント外れな発言でみなさんに混乱を与えたがうまくまとめてくれて逆に理解できたり、助言者の、「イベント企画は理想をまず考えて現状を近づけるアクションを行なう」「若者が継続する秘訣は大人が資金と場の提供に徹する」に納得できたりした。

規模の大きさと遠くからの参加者に驚いたが、この大会の目的は何なのか疑問が湧き、試行錯誤するうちに自分なりに、この大会に参加するまでは遥か遠くにいた「E S D」の視点が近づいてきたような気がしたのは不思議だった。それが、この大会の力だったのでしょか。



◆分科会運営委員（職員）の感想

西大寺公民館：石垣真由美

私は、今大会において「若者の参画」分科会運営メンバーとして参加しました。会議は、初めから熱い議論を交わすことができました。「公民館に若者がこない」という問題意識を皆で深掘りし、「公民館に来る・来ないを問わず、若者が自分らしく地域で輝くためには何が必要かを語ろう！」という主旨の素晴らしいテーマに決定。公民館らしい楽しい雰囲気になりそうな予感がしました。

西大寺地域の青少年育成関係団体メンバーをお誘いし、迎えた当日、佐藤先生のご講演で「公民館とは」という全体像をそれぞれの参加者が学び、その後の分科会では予想通り熱い議論を交わしました。私が一番感動したのは、小学生のころに公民館を利用していた女子大学生が、地域の小学生に体験の場をつくっている実践を、堂々と希望を持って発表していたことです。このような若者が増えたらいいな、そのために公民館ができることはたくさんあるなあと改めて気づかせていただきました。最後、西大寺地域の参加者たちと「楽しかったね〜！」と喜び合いました。地域で活動している人たちと「公民館ってすごいね！」と語り合えた事が、財産となりました。

第5分科会 地域づくり

未来へつなげる地域の宝～つなげていこう人と人の絆～

◆趣旨

地域にある史跡や自然を守るだけでなく、地域の宝を活用しながら、人と人のつながりを築き、住民主体の地域づくりを進めていく方策を考える。また、地域づくりに関連する公民館職員や実際に活動している方、これから取り組みを考えている方との交流も図る。

◆実践報告のテーマと発表者

- ①「地域に眠る魅力を起こす ～歴史文化を形に残し、次世代につなげる～」

発表者 妹尾公民館 井戸マッププロジェクトメンバー

- ②「子どもたちへつなぐ瀬戸の宝物 ～豊かな自然 多様な生きもの～」

発表者 瀬戸町ダルマガエルの会メンバー

◆流れ

1. 分科会開会・趣旨説明
2. 事例発表
3. ワークショップ①：グループ内での自己紹介と、事例発表を聞いての質問・感想を出し合う
4. 質疑応答：ワークショップ①で出された質問に発表者がそれぞれ回答
5. ワークショップ②：「地域づくり」として今後やってみたいこと、事例発表を聞いて、自分がやってみたいと思ったこと、既に取り組んでいることについて話し合い。
6. グループごとに意見を発表・共有
7. 分科会のまとめ

【事例発表の概要】

井戸マッププロジェクトの発表では、現存する井戸を調査し形に残す「井戸マップ」作りを出発点に、完成したマップを持って井戸をめぐるウォーキングを実施し、そこから地域に現存する史跡などを様々な機会と形で次世代に繋げ発展させていく活動の報告であった。対象も区内だけではなく、隣接する学区にも声をかけ、活動の輪を広げる試みがなされている。今後は地域内の歴史文化等の調査を継続しながら記録することでそれらを形に残し、より多くの地域の人たちへ伝承する仕組み作りを行いたいという思いが語られた。



瀬戸町ダルマガエルの会の発表では、ダルマガエルを切り口に1人で開始した活動が公の活動になり、生きもの全般に活動の幅を広げながら仲間を増やしていった経緯、参加者だった子どもがボランティアスタッフとして活動をしている学びの循環モデルを提示した。そして、瀬戸の宝物である自然環境を子どもたちへつなぐために、公民館を拠点として地域・学校・企業との連携を一層強化し、豊かな自然環境を守っていきたいという意志が示された。

いずれの事例も学びの成果を形にして、その成果物をどう活用するのか見据えた活動であった。

◆話し合われたこと

2つの事例発表を聞いた後、7つのグループに分かれ、グループ内での自己紹介と発表に関する感想および質疑応答を行った。その後、『地域づくり』として今後やってみたいことをテーマに、「やってみたいこと・今取り組んでいること」を個人で書きだした後、グループで共有し、それに対する「質問」と「アドバイス」をグループごとに話し合った。

☆公民館を憩いの場（スペース）に、行ってみたいくなる公民館に

…男性とのつながりが少ないのでサロンを通して参加を呼び掛ける

老人クラブと共催にする、ESDカフェをする、図書コーナーを居心地良くする

☆地域の宝発見と一緒に

…成果物をどういかすか？→「つくる」のが目的ではなく、「使う」のが目的

☆地元にある貝塚の研究を詳しく知らせたい

…地域の歴史を研究→保存会や語る会を作ったらどうか？→既成組織の活用（ゼロからよりも）

→有志の会がいい（町内会でなく）

☆公民館まると博物館（学芸員をおいてエコミュージアム）（青）

…学芸員ではなく、賛同する人で集まろう！

…歴史を映したDVDの活用→シティミュージアム、図書館、RSK、岡大などの活用

→公民館の持っている資料の活用を考える

…今までの資料プラスアルファでネット上への公開をしたい（青）

…活動を自然体に広げられたらいいのに

…学校での活動をしたい（生徒を巻き込む）（青）

◆議論のまとめと今後への課題

グループワークでは「地域づくり」について、地域にある宝に焦点を当てながら議論を深めたグループが多かった。

地域の宝はどこにでもある。しかし、その宝を見つけられない、当たり前すぎて宝として認識できていないことが多い。そういった宝を見落とさないためには様々な視点で地域を見つめる必要がある。

また、活動の後継者を作り、次世代・若い世代や子どもたちに繋げることが重要である。地域の歴史文化を学ぶ入り口は小学校の授業で、その続きは社会教育で行うことが理想である。学校と地域を繋ぐ役割として期待されるのが公民館である。「いいところを子孫の代まで」継承していくために、10年、20年、50年後の地域を見据えながら活動をしていくことが今後の課題である。

◆分科会運営委員（市民）の感想

岩本 潤一

第1回公民館大会を終えて

岡山市内の全ての公民館に、市民の活動を報告する機会を設けた事は大変意義のある事だと思います。

昨年のプレ大会から関わり、本大会でも発表させて頂いた事は、今まで長年やってきた事が無駄ではなく、やっと少しずつ実をつけているのが実感できるような大会となりました。

これだけの規模の催し物をするのは、ここにくるまでの準備の大変さは想像できます。ただ「取り敢えず」やってみようから始まった事は継続しないと意味がなくなります。規模はどうか、続けられることを望みます。

残念なこともあります。地元の公民館では大会に参加した人以外は、ほとんど大会の事を知らないか無関心です。他の館の状況は如何でしょうか。もう少し多くの人に関心を持って貰える大会になればと思います。

◆分科会運営委員（職員）の感想

妹尾公民館職員 細川由起

普段はあまり接することが無い他館で活躍されている市民の方々と、公民館の職員とが一丸となり『分科会をよりよいものに、そして成功させよう』という同じ目標に向けて、打合せや議論を交わした時間は、大会を終えて振り返ってみると大変貴重な時間だったと思います。

当日の分科会では、実践報告として自分たちの活動を自分たちの言葉で市民の方が発表されたこと、その後のグループワークが活発に行われている様子を見て、参加者各々が地域に愛着を持ち、地域で何かをやりたいという思いがあるのだということが、ひしひしと伝わってきました。

そして、地域の歴史文化を学ぶ入口は学校教育、その後は社会教育＝公民館ということ、学校と地域を繋ぐという意味でも公民館へ多くの皆さんが期待を寄せて下さっていることを改めて感じ、身の引き締まる思いがしました。

この分科会で今後の課題とされた「活動の後継者の育成」や、数年後ではなく「10年、20年、50年後を見据えた活動」をしっかりと視点に入れた公民館事業に取り組んでいきたいと思っています。

第一回岡山市立公民館大会 開催ストーリー

★経過

<実行委員会>

- 第1回実行委員会／6月22日（木）@岡輝公民館
- 第2回実行委員会／9月14日（木）@岡輝公民館
- 第3回実行委員会／11月28日（火）@岡輝公民館
- 第4回実行委員会／1月23日（火）@岡輝公民館
- 第5回実行委員会／3月8日（木）@岡輝公民館

<分科会運営委員会>

*第1分科会（子育て支援）

10月23日、12月4日、1月19日

*第2分科会（防災・減災）

10月16日、12月7日、1月18日

*第3分科会（地域福祉）

10月30日、11月30日、1月25日、3月6日

*第4分科会（若者の参画）

10月12日、11月28日、1月11日

*第5分科会（地域づくり）

10月3日、11月9日、1月16日

★当日（2018.2.12）

9:30～ 受付開始





10:00～ 開会式



内田実行委員長あいさつ

全体進行は市民実行委員の
二部野淑恵さんが務めてく
ださいました



安田教育次長あいさつ





10:10～ 基調講演



11:50～ 昼食休憩



お弁当の交換はこちらで一す

障害者自立支援センターの
コンドルさんのお弁当



12:00～アトラクション



富山公民館「富山アカペラ」クラブの皆さんが、素晴らしい歌声を披露してくださいました♪

12:30～ 分科会



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会

15:20～全体会



それぞれの分科会の助
言者・担当職員から、分
科会の報告をしていた
だきました♪



一日を通じてのコメント
を佐藤先生からいただき
ました。



副実行委員長(中央公民
館長)閉会のあいさつ



1日中様々な写真を、市民実行委員の四谷雅俊さんが撮影してくださいました☆

私にとって公民館は居心地よい大好きな場所なので、市民として企画に参加できたことは光栄で、勉強になりました。委員の方は積極的に地区館で活動されている人生の先輩。公民館職員さんも熱心で、自分に何ができるか考える大会でした。

どの分科会も魅力的でしたが、子育て支援分科会は「発達障害」がテーマで、自分の活動に繋がっているのので、参加し易かったです。今後も参加したいです。貴重な機会をありがとうございました。

市民実行委員 森石雅子

第一回公民館大会は想像以上に規模が大きく内容のある大会でした。大会開催の準備や当日の運営に当たられた公民館の職員さんをはじめ参加された皆さんの熱意に感動いたしました。今回得られた経験や成果を色々な手法により幅広く知らされることで今回のテーマである「地域を作り未来を拓く公民館」へのスタートが出来たことになると思います。

地域づくりのためには町内会の皆さんとの協働が不可欠であると考えます。公民館大会の開催を積極的に一般市民に広報するとともに町内会の役員を通して大会への協力や見学を積極的に地域民に案内しては如何でしょうか。

今回、公民館職員の皆様とご一緒させていただき貴重な体験ができたことを感謝いたします。

市民実行委員 四谷雅俊

昨年の公民館プレ大会の報告集を見て、有意義な会だと分かった。そこでどの様に会を作り上げていくのか興味を持ち担当者に仲間入りさせて頂いた。基調講演から全大会までの流れ、分科会の分野・担当まで卒なく進めていった職員・市民のレベルの高さを感じた。大会目的の明確化、役割分担の軽減など課題はあるが、多くの市民・職員の参加があり、参加者同士の交流、公民館の理解に役立った基調講演、実践的で参考になった分科会を振り返ると、この会の有用性と継続の価値を感じる。

光南台公民館 石原訓志



多くの方の思いを乗せた大会が無事に終了し、安堵の気持ちとともに公民館というものが担うべき役割の大きさに改めて身の引き締まる思いがしています。この大会での経験はこれからの仕事に大きく役立つものになると感じると同時に、多くの課題を与えていただいたと感じる大会となりました。

中央公民館 浦上裕希

市民の皆さんと一緒につくり共に学びあい、次につながる第1回公民館大会になったと感じています。様々な年代や地域（県外）からの参加者との交流はとても刺激となり、出会いとつながりから新しいことが始まりそうです。

東山公民館 竹内絵理

市民と職員でつくりあげた第1回公民館大会になったと感じます。準備の過程や当日の学びあいの中で、多くの気づきや学びがありました。当日は、参加して下さった市民の皆さんの熱気にあふれ、積極的な意見交換により、館を超えてのつながりや信頼関係も生まれました。公民館の意義や可能性をさらに広げ、日々の実践の中で生かしていきたいと思えます。

富山公民館 田中純子

昨年度のプレ大会に引き続き、担当者として携わらせていただきました。当日の熱気あふれる意見交換もさることながら、当日までの準備で市民の皆さんとともに意見交換しながらつくり上げる過程が本当に刺激的で、多くを学ばせていただきました。公民館大会を通じて、あらためてこれからの公民館の果たすべき役割や可能性を考える貴重な機会になったと思っています。

津高公民館 花房聡子

今回初めて実行委員会に加わりました。会議を通して自分の館以外の方と出会い、つながりをもてたことが嬉しかったです。わからないことは、経験豊富な市民の方や先輩職員からアドバイスをいただいたことで、自分の学びにもつながりました。当日は大変盛り上がり、いろんな方と話すことができ私自身も楽しかったです。そして、岡山市の公民館が愛されていること、注目されていることを改めて感じた公民館大会でした。

中央公民館 森川千裕

第1回岡山市立公民館大会へのメッセージ

東京大学名誉教授 佐藤 一子

第1回公民館大会は、大変充実した内容で、各分科会とも活発な討論が交わされていました。何より、準備をおこなってきた大会の実行委員会のご努力に敬意を表したいと思います。

実行委員会の構成も市民参加で、職員の方々との協働がしっかりおこなわれていたことが、大会の成功の力となったと思います。多くの市民の方々が大会に参加されたことが、今後の岡山市の公民館活動のエネルギーとなっていくと確信します。

分科会をひとまわりしてみた感想として、どの分科会も数十名の参加でグループ討論をおこなうことも時間の制約があつて大変だったと思いますが、それぞれに工夫をして、分科会報告を受けて自己紹介とグループ討論をスムーズに行っていました。高校生の参加もあり、年齢的にも多様な世代が交流するよう配慮されていました。他地区のすぐれた実践に触れて刺激を受けながら、地元にもちかえってそれぞれの地区にあった実践をつくりだしていくうえで、公民館大会の分科会は大変重要であり、今後とも他地区に学び、交流するという場を大切にして、岡山市全体の公民館活動の高まりにむけてご尽力いただきたいと思います。

各分科会の助言者の皆さんも、新たな地域での学び、学習と参加、学習から行動へという展開を導くという点で、さまざまな機会、主体と連携する経験豊富な方々であり、多くの示唆をいただくことができました。公民館から地域の協同連携へとつなげていくことは、より多くの市民の参加、共に生きるという関係づくりという点で、今後いっそう重要になってきます。学びを広げ、学びのネットワークをつくるという点で、NPO 団体や公的機関の専門家、ユネスコ協会などとの協力が非常に重要であり、その意味でも第1回の大会でそうした課題を共有できたことは大きな意義があると思います。

若者の参加という点では、まだ今後の課題として残されている部分が多いと思います。子ども・若者にとって地域に関わる、参加的な学びは、今言われているようなアクティブ・ラーニングという点で重要性を増しています。しかし、子ども・若者が場をつくられてでてくるという形ではなく、真に主体的な関心を持ち、主体的に学ぶ過程を地域で、異世代と共にどのようにしたら実現できるのか、学校的な学びではないノンフォーマルな学びを創るという実践を探求する必要があります。岡山の公民館が追求しているESDは、大学での研究も視野に入れた全人類的な学習課題を無限に含んでいます。あらためて、子ども・若者のキャリア形成と知的探求の深まりをみすえて、ESD実践が、人を育てるちからとなっていくことを期待したいと思います。

平成 29 年度第 1 回岡山市立公民館大会実行委員

		公民館名	氏 名
1	市民実 行委員	中央	村上 真理子
2		岡西	竹原 克子
3		東	明石 宗伸
4		富山	本澤 美夜子
5		京山	森石 雅子
6		光南台	四谷 雅俊
7		東山	内田 武宏
8		灘崎	二部野 淑恵
9	職員実 行委員	中央	西崎 修
10		中央	黒瀬 高弘
11		中央	浦上 裕希
12		中央	森川 千裕
13		北	長畑 郁子
14		津高	花房 聡子
15		妹尾	細川 由起
16		富山	田中 純子
17		光南台	石原 訓志
18		東山	竹内 絵理
19		灘崎	尾藤 寿実
20		万富	江田 拓志

第1回岡山市立公民館大会 アンケート

本日は第1回岡山市立公民館大会にご参加いただきありがとうございました。今後の公民館大会がより一層充実したものとなるよう、皆様の声をお聞かせください。

年代 10・20・30・40・50・60・70・80・90 歳代

居住小学校区名 (小学校区) **市民・職員**

1 この大会をどうやって知りましたか? ※職員記入不要

※該当する数字すべてに○をつけてください

- ①市民のひろば ・ ②レディオモモ ・ ③公民館だより ・ ④公民館設置のチラシ
 ⑤公民館職員からの声かけ ・ ⑥フェイスブック ・ ⑦HP ・ ⑧ポスター
 ⑨その他（具体的に： _____)

2 あなたと公民館とのつながりについてお尋ねします ※職員記入不要

【公民館の利用について】

公民館は主にどのようなことで利用していますか? ※該当する数字すべてに○をつけてください。

- ①主催講座に参加 ・ ②クラブ講座に参加 ・ ③公民館の部屋を使用
 ④企画委員をしている ・ ⑤運営委員をしている ・ ⑥図書コーナーの利用
 ⑦チラシ等情報を探しに ・ ⑧住民票等の取得
 ⑨その他（具体的に： _____)

【公民館の利用頻度について】

公民館の利用頻度はどれくらいですか? ※該当する数字に○をつけてください。

- ①毎日 ・ ②週に1回以上 ・ ③月に2～3回くらい ・ ④月に1回くらい
 ⑤数か月に1回程度 ・ ⑥年に数回程度 ・ ⑦まだ利用したことがない
 ⑧その他（具体的に： _____)

3 本日の内容について、あなたの満足度をお聞かせください

【基調講演】「地域をつくり未来を拓く公民館～ESDの推進からみえてくる地平～」

※ 該当する数字に○をつけてください

1 2 3 4 5
 物足りない ←————— 普通 —————→ 大変充実していた

そう感じた理由をお聞かせください

▶▶▶ 裏面に続きます

【分科会】

◇ 参加した分科会に○をつけてください

第1：地域の子育て支援

第2：防災・減災

第3：地域福祉

第4：若者の参画

第5：地域づくり

◇ 分科会の満足度について

※ 該当する数字に○をつけてください

1 2 3 4 5
物足りない ←————— 普通 —————→ 大変充実していた

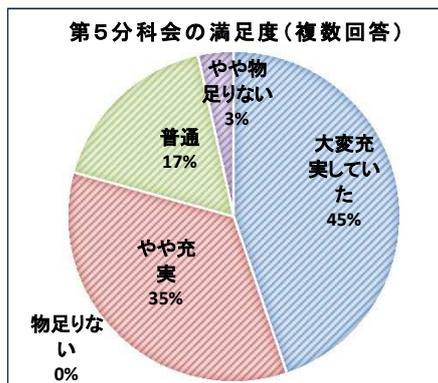
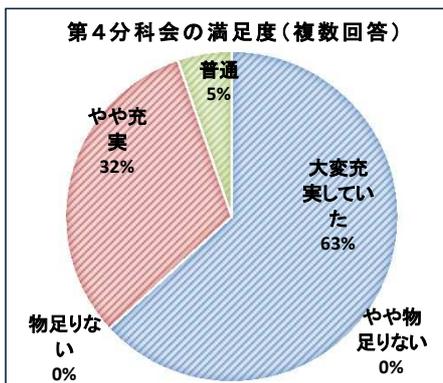
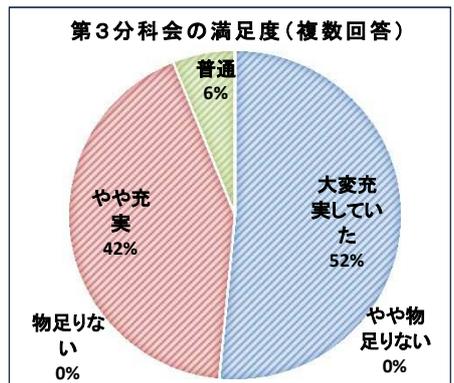
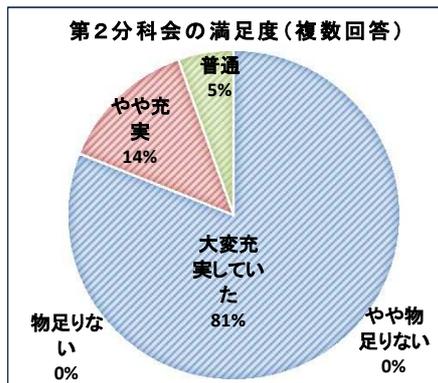
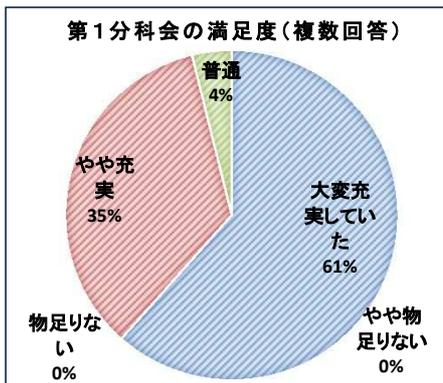
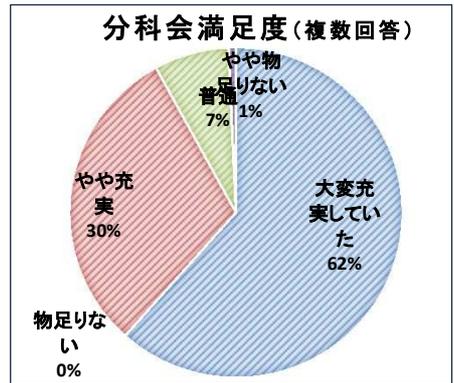
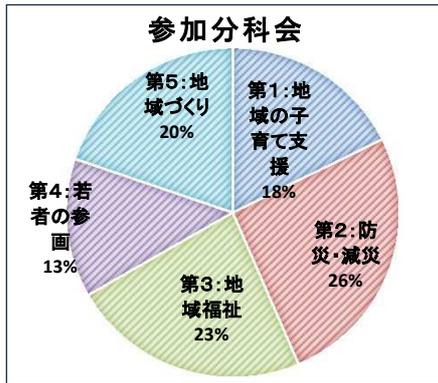
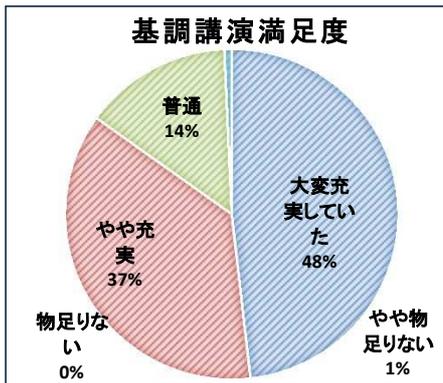
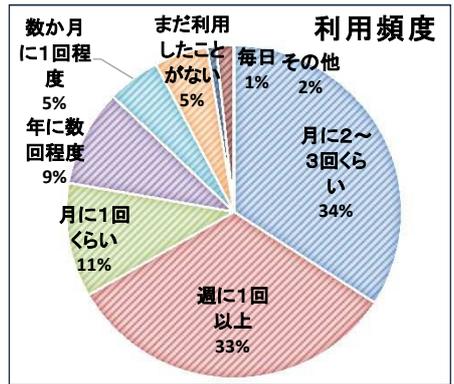
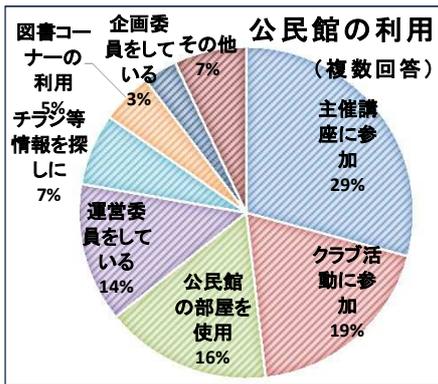
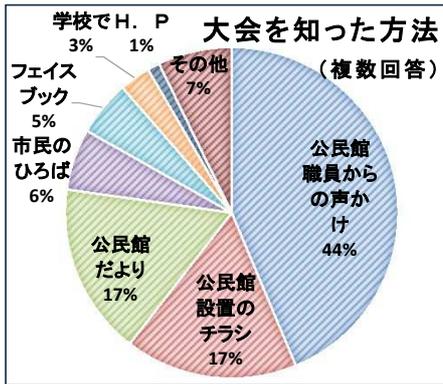
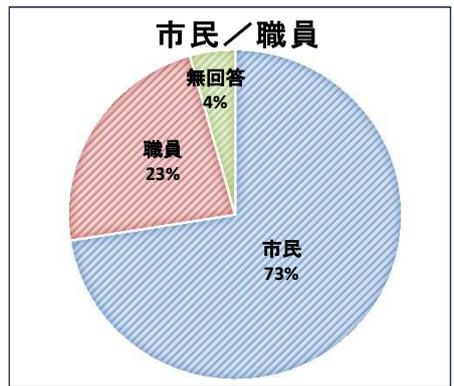
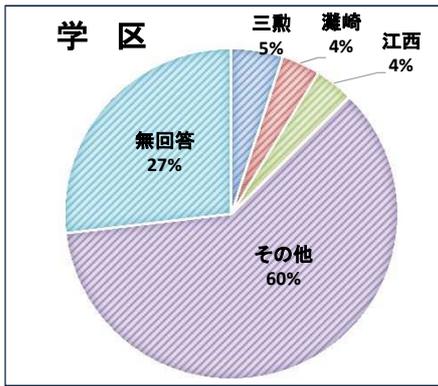
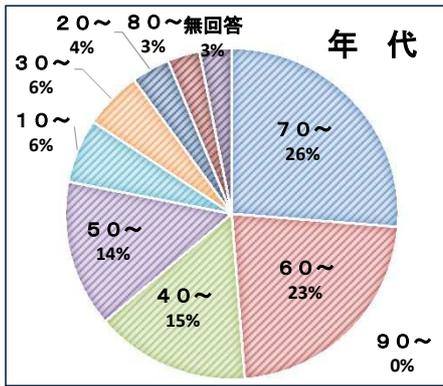
そう感じた理由をお聞かせください

4 本日の感想や今後、公民館に期待することなどを自由に記入してください

ご協力ありがとうございました。

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果－1(その他・感想等以外)

参加者数: 280名 回答者数: 160名 回答率: 57%



<分科会>
 第1: 地域の子育て支援
 第2: 防災・減災
 第3: 地域福祉
 第4: 若者の参画
 第5: 地域づくり

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果-1(その他・感想等以外)

参加者数: 280名 回答者数: 160名

回答率: 57%

年代別人数(人)

年代	人数	率
10~	10	6%
20~	6	4%
30~	9	6%
40~	24	15%
50~	23	14%
60~	36	23%
70~	42	26%
80~	5	3%
90~	0	0%
無回答	5	3%

学区	人数	率
三 勲	8	5.0%
灘崎	6	3.8%
江西	6	3.8%
妹尾	5	3.1%
中央	5	3.1%
幡多	5	3.1%
平井	4	2.5%
宇野	4	2.5%
富山	4	2.5%
操南	4	2.5%
御津	4	2.5%
庄内	3	1.9%
千種	3	1.9%
大元	2	1.3%
芳田	2	1.3%
高島	2	1.3%
小串	2	1.3%
鹿田	2	1.3%
牧石	2	1.3%
平島	2	1.3%
岡南	2	1.3%
可知	2	1.3%
三門	2	1.3%
幸島	2	1.3%
大野	2	1.3%
吉備	2	1.3%
甲浦	2	1.3%
横井	2	1.3%
御野	1	0.6%
中山	1	0.6%
西大寺	1	0.6%
旭操	1	0.6%
第三藤田	1	0.6%
城東台	1	0.6%
清輝	1	0.6%
平福	1	0.6%
七区	1	0.6%
西	1	0.6%
桃丘	1	0.6%
芳泉	1	0.6%
野谷	1	0.6%
竜之口	1	0.6%
早島	1	0.6%
御南	1	0.6%
南輝	1	0.6%
古都	1	0.6%
竜の口	1	0.6%
操明	1	0.6%
桃ヶ丘	1	0.6%
開成	1	0.6%
操山	1	0.6%
御休	1	0.6%
馬屋下	1	0.6%
五城	1	0.6%
無回答	43	26.9%

市民/職員区分

市民/職員	人数	率
市民	116	73%
職員	37	23%
無回答	7	4%

公民館大会を知った方法(複数回答)

公民館大会を知った方法	人数	率
公民館職員からの声かけ	73	43.7%
公民館設置のチラシ	28	16.8%
公民館だより	28	16.8%
市民のひろば	10	6.0%
フェイスブック	9	5.4%
学校のチラシ、先生の紹介	5	3.0%
H. P	2	1.2%
佐藤先生から	1	0.6%
知り合い	1	0.6%
案内があった	1	0.6%
公民活動の中で知った。	1	0.6%
公民館地域づくり部会メンバー	1	0.6%
発表者の応援。	1	0.6%
防災キャンプの実施で。	1	0.6%
先生からの声かけ。	1	0.6%
友人からの声かけ。	1	0.6%
よつばの会の人より紹介	1	0.6%
出席者からの紹介	1	0.6%
岡山市こどもセンター事務所設置	1	0.6%

【公民館の利用について】(複数回答)

公民館の利用	人数	率
主催講座に参加	71	29.2%
クラブ活動に参加	46	18.9%
公民館の部屋を使用	39	16.0%
運営委員をしている	33	13.6%
チラシ等情報を探しに	17	7.0%
図書コーナーの利用	12	4.9%
企画委員をしている	8	3.3%
住民票等の取得	1	0.4%
新聞の閲覧	1	0.4%
ボランティア	1	0.4%
他地区の公民館活動に関わっている	1	0.4%
ときどき利用している	1	0.4%
園芸ボランティア	1	0.4%
講座で講師	1	0.4%
新公民館の運営委員をしている	1	0.4%
講座の講師及びボランティア	1	0.4%
講座を開催している	1	0.4%
公的なある委員の情報交換等で	1	0.4%
ジュニアリーダーの活動として、	1	0.4%
町内会活動	1	0.4%
文化祭出演(子供銭太鼓)	1	0.4%
地域サロン運営に協力して頂い	1	0.4%
就美大学の学生(「社会教育計画	1	0.4%
催し物などの参加。	1	0.4%

【公民館の利用頻度について】

公民館の利用頻度	人数	率
月に2~3回くらい	40	34.2%
週に1回以上	38	32.5%
月に1回くらい	13	11.1%
年に数回程度	11	9.4%
数か月に1回程度	6	5.1%
まだ利用したことがない	6	5.1%
毎日	1	0.9%
1年に1~2回	1	0.9%
以前利用していた。	1	0.9%

基調講演の満足度

基調講演	人数	率
大変充実していた	67	48%
やや充実	51	37%
普通	20	14%
物足りない	0	0%
やや物足りない	1	1%

参加した分科会(複数回答)

参加分科会	人数	率
第1: 地域の子育て支援	26	17.7%
第2: 防災・減災	38	25.9%
第3: 地域福祉	34	23.1%
第4: 若者の参画	20	13.6%
第5: 地域づくり	29	19.7%

分科会の満足度(全体)

分科会	人数	率
大変充実していた	85	62%
やや充実	42	30%
普通	10	7%
やや物足りない	1	1%
物足りない	0	0%

第1分科会の満足度

分科会	人数	率
大変充実していた	16	62%
やや充実	9	35%
普通	1	4%
やや物足りない	0	0%
物足りない	0	0%

第2分科会の満足度

分科会	人数	率
大変充実していた	30	81%
やや充実	5	14%
普通	2	5%
やや物足りない	0	0%
物足りない	0	0%

第3分科会の満足度

分科会	人数	率
大変充実していた	17	52%
やや充実	14	42%
普通	2	6%
やや物足りない	0	0%
物足りない	0	0%

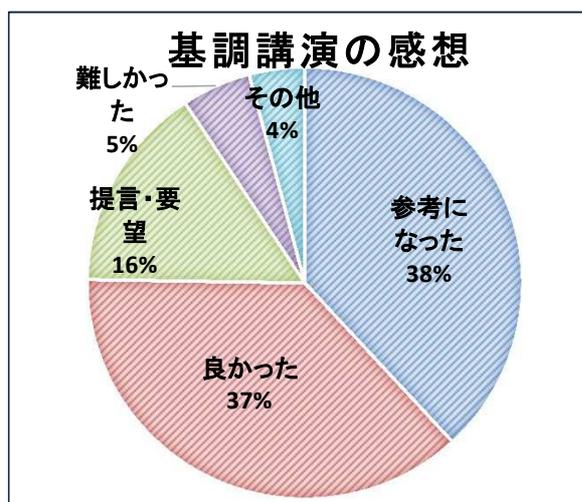
第4分科会の満足度

分科会	人数	率
大変充実していた	12	63%
やや充実	6	32%
普通	1	5%
やや物足りない	0	0%
物足りない	0	0%

第5分科会の満足度

分科会	人数	率
大変充実していた	13	45%
やや充実	10	34%
普通	5	17%
やや物足りない	1	3%
物足りない	0	0%

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果－2（基調講演の感想等）



参加者数： 280名
 記入者数： 97名
 記入率： 35%

分類	件数	率
参考になった	37	38%
良かった	36	37%
提言・要望	15	15%
難しかった	5	5%
その他	4	4%

◆参考になった感想内容

1	公民館の意見を参考に今後みんなと話します。
2	地域づくりのため公民館が果たす役割の方向性がなんとなくわかった気がする。
3	参加人数が多く、多様な意見を知ることができました。助言者の方のお話が大変実践的でためになりました。
4	時代の流れと公民館に対する期待される部分、今後のことについて考えさせられる講演でした。ただ、公民館職員としてはその期待される部分と何ができるのかということについて、大きなギャップを感じた気がしました。
5	自分の考えをクリアにしてくれた。
6	・公民館の活動が地域のネットワークが基盤になっていることが分かった。 ・岡山の活動がなぜそれほどすごいと評価されるのか、その理由が分かった。（参加者が知らない、気づかないことを研究者の視点で教えてもらった）
7	岡山市の公民館が貴重な存在であると先生のお話をお聞きして思いました。
8	現在岡山市の公民館がやっているその先を見通せる内容があり、参考になった。
9	知りたいことを学ばせてもらった。公民館の活動に地域資源を生かすことが具体的で今後役に立てる。今後の活動に参考になった
10	公民館の理解に役立った。
11	赤ちゃんから老人迄、岡山から世界へ、深く広い活動されているのに感心しました。
12	地域づくりに燃えている人が多く将来の展望は明るいと思う。
13	ESDの推進に取り組むことを、改めて考えさせられた。
14	地域づくりに大切なことなど、大切なことが分かった。
15	公民館活動は当地岡山市内に於いても、地域づくりよりも個々人の学習の場として利用するものが圧倒的である。各町内活動も徐々に崩壊しつつあるのが現状である。所〇「コミュニティー」づくりよりも「アソーシエーション」活動の場となっている。これからの地域づくりの参考にしたい。
16	岡山の先進性と、全国の取り組みがよく分かりました。
17	ヒントが多かったです。
18	様々な各地域の情報を知ることができて、とても参考になりました。
19	「地域づくり」のあり方、公民館の位置づけがよくわかった。他地区の事例を聞かしていただき、参考になった。（国内・海外）
20	これからの活動の目安が確認できた。
21	公民館及び利用者の悩みが聞け共有できた。
22	参考になりました。
23	大変勉強になりました。
24	改めて公民館の意義・役割・課題について学べた。
25	多くのことを学ばせて頂きました。地域にかえて、しっかり伝え、今後の活動に生かさせて頂きます。ありがとうございました。
26	大変勉強になった講演でした。地元の公民館にて今日の勉強を広めていけたらと思います。
27	学区により、防災の取組み差の大きい事を痛感した。
28	確認できたことをこれからにつなげていきたい。

29	社会教育施設が、それぞれの力を活かし、食育の取り組みをしている実践が印象に残りました。
30	さまざまな意見が聞けてよかった。
31	都市型と農村型の話が興味深かったです。また、これまでの公民館とこれから目指す方向性がよく理解できました。
32	防災についてあらためて知ることができた。
33	食に対して考えるヒントになった。
34	公民館活動への活力にヒントを得た。
35	他の自治体の事例も紹介してくださって、日本全体の動向もわかってきた。
36	ノンフォーマル教育で個人の有用性を育めるという視点が大変おもしろかったし、今後大切にしていきたいと思いました。
37	岡山の公民館が、全国の先進県であることを初めて知った、普通なことが、すばらしい事であった。

◆良かった感想内容

1	問題提起が適切であった。
2	ESDと公民館を、理論的に把握するための基調講演は素晴らしかったです。実践を踏まえたグループワークで、さらに理論を自らの意見として反映させる事ができました。
3	お話の内容が項目別に整理されておりわかりやすかった。
4	とっかかりは何でもいいので、とにかく参加して感動して考える、そこから地域へつながっていくんだとエールを送ってもらえたような気がします。
5	公民館の歴史が分かり良かったです。ありがとうございました。
6	一糸乱れぬ運営と完璧な準備でレベルの高い会でした。頑張ります。
7	日々公民館に対して感じていたことが、講演を聞くことで、具体的な問題点や展望としてアウトプットできた。また、地域学習、生涯学習の必要性を改めて認識することができ、私自身の学習意欲につながったように思う。
8	基調講演も的を得たものであったし、分科会も参加者が熱心で充実していた。運営もスムーズだった。
9	佐藤先生のお話、会場の熱気のおかげで社会教育への情熱を再燃できた(H23～H24頃の社教主講習時を思い出した)
10	住民一人ひとりが主体的に課題解決していくことが求められている。未来志向的次世代型につなげていかねばならないことに感銘を受けた。
11	他の公民館利用者と直接お会いできた。活動の内容をお聞きできた。(地域福祉参加)
12	日本での公民館の推移を通して今後のあるべき地域社会の拠点としての公民館についてわかりやすく御説明を頂いたことが良かった。 各事例についての紹介は大変興味深く更に調べて自分の地域でも活かしてみたいと考えます。
13	・新しい切り口で、いろいろな事例を取り上げて分析して答えを出している。 ・人を信じ、未来を作ろうとしている様に感じられた。(話が暖かい気がして…) ・地域における社会教育の重要性を再認識できた。
14	午前中の佐藤先生の講演の内容がすばらしい。瀬戸町公民館、生き物振偵団の活動と多いに重なり、さらに頑張っ取り組みたいです。 お世話になりましたスタッフの皆様にご御礼申し上げます。
15	社会教育、公民館の大切な要点を的確に基礎から教えてくださった、話し方、さすがに上手でした。
16	基調講演がわかりやすく特に良かった。
17	いろいろ新しいチェックポイントを教えていただいた。 命の大切さについて特に強調して語られ共感することが多かった。
18	苦勞が、にじみ出ている……
19	公民館の歴史を知り、将来について考えるいいきっかけになった。 レジュメも役に立つし、先生の話もわかりやすかった。
20	ご自身の実践が挙げられていた。 未来志向のものだった。
21	今後に続く大会が更に充実したものになるかもしれないという期待が持てました。
22	分科会の事例発表やワークショップなど興味深いものがありました。 来年もあれば参加させて頂きたいくらいです。 有り難うございました。
23	お話がわかりやすかった。
24	公民館の役割をわかりやすくお話いただきました。
25	佐藤先生の基調講演が勉強になった。 ワークショップを行うことで、深く考えることができた。
26	地域住民の方々の積極的な参加により、充実した内容の研修であり、感動しました。
27	良かった。これからも活動、お願いします。

28	佐藤先生が岡山の取り組みを充分理解し、それを踏まえた講演をしてくださったことに感謝したい。
29	普段考えないことを深く考えることができた。
30	地域と公民館のつながりがよく理解できた。
31	社会教育とESDの関係の整理ができました。 未来志向、グローバルと地域をつなぐ実践の積み上げが大切だと思います。
32	話し方(ゆっく、りはっきり)がとても印象よく、内容もとてもわかりやすく、とてもよかったです。ありがとうございました。
33	基調講演はすばらしかった。
34	1、大変わかりやすかった。 2、今直面している問題(地域活性化)に直結していたので、興味深く聞くことができた。
35	客観的に岡山の実践を見て評価、ご自身の研究にも引き付けてお話しいただき、大変わかりやすかった
36	歴史や背景もよくわかり、実践も興味深かった 第一人者佐藤先生の話が聞けたから

◆難しかった感想内容

1	公民館活動は理屈ではなく、実践だと思っています。頭でっかちな理屈よりもまず参加してみよう、仲間に声かけをして一緒に集まろう！がまずありき、だと思っています。余りに理屈っぽくて、私のような頭の悪い人間には難し過ぎました。
2	内容が難しい部分があり、少し長かったから、参考になる話もたくさんありました。
3	少し単語が難しかった。問題の具体的な解決方法をもっと入れてほしい。
4	なかなかワークショップのスタートが難しかった。 ルールを理解してもらうまで時間がかかり、タイマーがなってしまうたり・・・ その他は、とても良かったと思います。市民の方もいきいきと話をされていました。
5	難しかった。

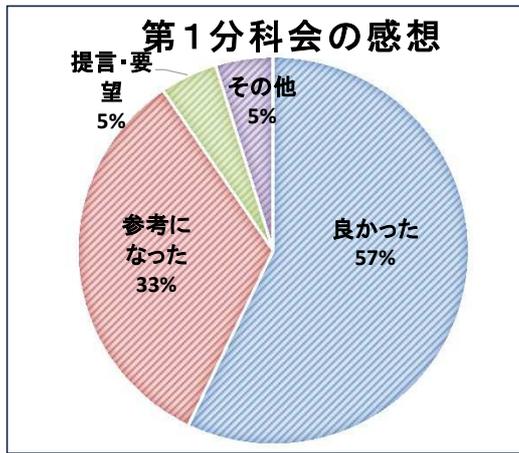
◆提言・要望等の内容

1	事例がもう少し身近なものがよかったです。社会教育の現状についてよくわかりました。
2	職員は良いですが、字も小さく、一般の方には難しかったかもしれないかなと思いました。
3	他の話もちょっと聴きたかったです。
4	名札に所属の公民館名があった方がよかったです。お疲れ様でした。
5	小学生、中学生のいる親の参加を！！
6	事例はいらない。
7	若者の参画を増やすためのヒントをもう少しいただければよかったです。 ボランティアのポイント優遇など、既出のアイデアではなく・・・
8	パワーポイント、資料の字がもう少し大きい方がよい。
9	内容があまりに深くなりすぎていた。的が絞れるといいね。 自分の有用性持てばいいなあ！共感しました。
10	基調講演の内容があまり興味・関心がなかったの。
11	我が町内の地域づくりに生かせる講演でしたが・・・
12	1. 2は勉強になったが、3. 4はあまり参考にならなかった。
13	直接的なワークショップの方がよい。(高校文化祭という設定でなく)
14	問題は同じに感じたが、解決案は得られなかった。
15	職員対象の内容としては理論的で理解が広がると思う。 市民参加の方たちにどう映ったか・・・の部分で、3になりました。

◆その他の内容

1	現在、旧灘崎町公民館ですが、その時の館長、次第でいろいろではないですか。
2	○立中央高等学校の生徒に成った事は非常に良い。
3	都合により受講していません。
4	参加してない。

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果－3（第1分科会の感想等）



参加者数： 45名
 記入者数： 21名
 記入率： 47%

分類	件数	率
良かった	12	57%
参考になった	7	33%
提言・要望	1	5%
その他	1	5%

◆良かった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	グループワークの中で、実際に支援に関わってる方の話を聞き、テレビなどで聞く話とは違う実体験の話が聞けて良かったです。参加のきっかけが「夫の転勤で、岡山にやってきて、子の発達障害について相談相手がいない」という方がおり、その選択肢として公民館が選ばれた、というのが岡山の公民館の間口の広さ(岡山にはじめてやってくる人がいる・公民館の広報がしっかりしている・参加しやすい雰囲気)なのかなと感じました。
2	5	発表された公民館の内容、助言者のお話、ワークショップの話し合いもとても良かったです。参考になる意見もたくさんありました。公民館と地域住民、参加者の良い関わりが知れて良かったです。
3	5	活発な意見交換、情報収集ができたから。
4	5	グループ内での話し合いがたくさんでき、様々な意見が聞けた。
5	5	2つの公民館の活動発表ともにすばしかったです。そのような取り組みが他の公民館にも広がっていくといいと思います。ふせんを使っての話し合いも、色々な人の意見や経験談が聞けてよかったです。
6	5	参加された方のパワーを感じた。
7	5	とてもよかったです。(特にグループワークでの情報共有の企画はよかった) 公民館活動の中で生かされれば…うれしく思います。
8	5	グループワークで、発達障害についてのイメージの共有ができたことが、とても有意義でした。土岐先生の「まず特性があり、それが困難さにつながっていれば障害、そうでなければ個性」というお話がとても納得のいくもので、この考えを得ることができてとても良かったです。
9	5	内容が良かった よく理解できた
10	4	情報交換したり、共に考えたりすることができる分科会でした。ありがとうございました。
11	4	子どもへの接し方。診断の意味がわかってよかった。
12	4	機会があれば又参加したい。

◆参考になった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	発表で考え方が変わった。(あなたは無事に家族を救えるか)
2	5	様々な立場の方々が「発達障害」というテーマに沿って話すうちに、まだまだ認識が薄かったり、片寄ったりしていることがよくわかった。でも、公民館という共通のコミュニティーを基点に、理解と支援の大切さを広げているパワーを感じた。活動の大小にかかわらず、活動を継続していくことも大切だと思った。
3	5	・発達障害については知識ではなく、その人(子)と生活を共にすること。一緒に過ごすことで分かってくることを教えていただき、今後の接し方に役立った。 ・地域の人の子育てサポートについても取り組み方など参考になった。
4	5	市民の率直な意見が聞けた。
5	5	みなさんのいろいろな考えを確認することができました。
6	5	グループ討議でいろいろ勉強になりました。
7	4	私の感じていない事や意見を伺うことで知識が広がったような気がしました。(障害児)対応の仕方も少しは広がったような気がいたしました。

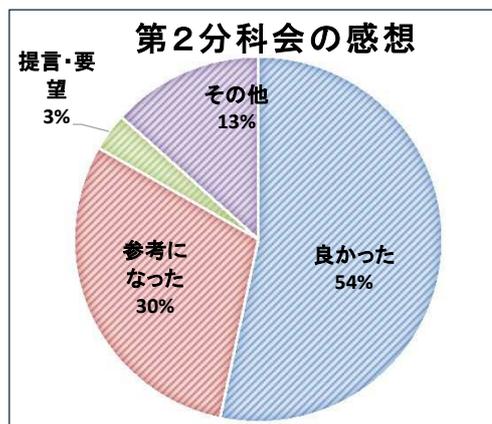
◆提言・要望等の内容

No.	満足度	内 容
1	4	人数に対して時間が足りないと思った。

◆その他の内容

No.	満足度	内 容
1	3	私の場合は障害者を持った経験もなく、質問に対して言い分も少なくその点は困りましたが、人は平等であるをベースに共生出来る社会になりますようにと願わざるを得ません。

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果-4 (第2分科会の感想等)



参加者数: 52名
 記入者数: 30名
 記入率: 58%

分類	件数	率
良かった	16	53%
参考になった	9	30%
提言・要望	1	3%
その他	4	13%

◆良かった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	冒頭の寸劇がリアルな高校生の様子を再現していてわかりやすかった。パワーポイントも動画をとり入れるなど、工夫されていてよかった。
2	5	実際に災害が起こるのかわからないので、グループワークで色々な災害についての意見が多く見ることができました。防災キャンプに参加してよかったと思いました。
3	5	防災キャンプに参加(運営)しています。本日の発表は、全てをのべていると思いました。
4	5	参加者が全員真面目に取り組んでいた。
5	5	高校生の力を感じることができた。ワークショップの設定も工夫されていて、楽しく参加することができた。
6	5	参加した人全員が、しっかりと活動できていた。
7	5	中高生が参加し、取り組みや実際の高校生の意見が聞けたことがよかった。
8	5	劇などがあり、わかりやすかった。
9	5	防災のことを考えることができて良かったと思う。
10	5	年が違う人と自分とは違う視点で話のできたので、普段友達とはできない話のできた。
11	5	みんな真剣に、かつ実際にできることをやろう、考えながら作っていたのがよかったです。それぞれの案のどれもできそうなので(竹内涼真はともかく)、やってみたらと思いました。
12	5	他の年代の人とお話できた。
13	5	・高校生を主体とした分科会で、次につながるもので大変良かった。 ・防災ボランティアを多く育成したら良いと思った。
14	5	防災キャンプがマンネリ化していたので、いろいろな話が聞けてよかった。
15	4	発表が体験にもとづいている。身近に感じた。
16	4	防災をテーマにした発表で、キャッチコピーが多く出てきたんでおもしろかった。

◆参考になった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	中学生・高校生から幅広い年代の方と、各地域の防災の取り組みが聞けたことが、今後の参考になりました。
2	5	体験、袋、家族をもう一度確認していきます。バッグの中身。
3	5	現役の女子高生も入り、全員で一つのテーマについて考えられた点が良かった。
4	5	皆で意見を出し合うことで、いままで考えなかった防災を見出すことができたから。
5	5	事例発表が良かったです。また、各テーブルに高校生が入って一緒にグループワークができたので、新しい視点を持つことができたと思います。参考にしたいと思いました。
6	5	防災に興味関心のない人にどう働きかけたらよいか、高校生の斬新なアイデアで考えることができた。
7	5	高校生にとって、本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございます。私も含め、防災、減災について、改めて学び直すことができました。
8	5	皆の意見を聞いて、新しく知ることができた。
9	4	多様な意見をきけた。

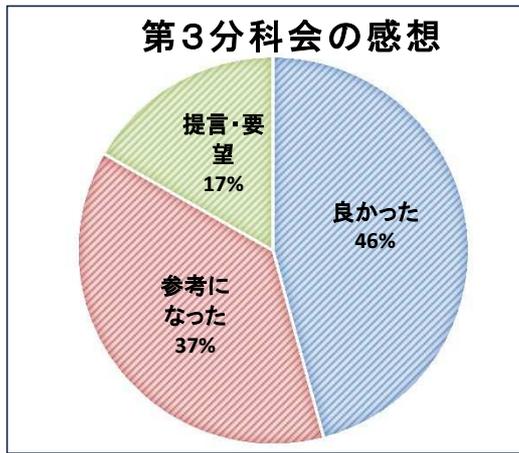
◆提言・要望等の内容

No.	満足度	内 容
1	5	防災訓練は、何回も何回も繰り返し体験することが必要だと思います。

◆その他の内容

No.	満足度	内 容
1	5	ワークショップでのミーティング
2	5	中高生とじっくり話すの楽しい。本音で話してくれる。
3	5	自分の力を精一杯出せたと思う。
4	3	ニコニコは、元気でした。

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果－5（第3分科会の感想等）



参加者数： 64名
 記入者数： 24名
 記入率： 38%

分類	件数	率
良かった	11	46%
参考になった	9	38%
提言・要望	4	17%

◆良かった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	よく意見が出ていた。
2	5	各公民館地区の発表が良かった。津高の12のサロンが発展することを祈願 福泊の活動きめ細かくて良かった。三木カフェのこれからの目標を成功してほしい！
3	5	報告3本＋水柿さんの事例、たくさん聞くことができました。 Wsも話がつきなかった。
4	5	困っていること、悩んでいること、具体的に話し合いの中で感じる事が出来ました。 充実した一日でした。
5	5	・事例発表がすばらしかった。 ・私もいっしょに活動させていただきます。
6	5	たくさん事例と意見交換が活発になされ、充実した分科会になった。 助言者の水柿さんのまとめがよかった。
7	4	参加者も多く活気のある分科会だったと思います。
8	4	全体的な問題 実践していると……いろいろ感じる事が出来ました。
9	4	・情報交換ができた。 ・美作上山地区の報告が良かった。
10	4	・地域づくりの課題を抱えていたので、具体的なアドバイスがいただけ、とても有効でした。
11	4	活動されている皆さんの活気を感じました。 皆さんの輝きや思いを大切に支援していきたいと思いました。

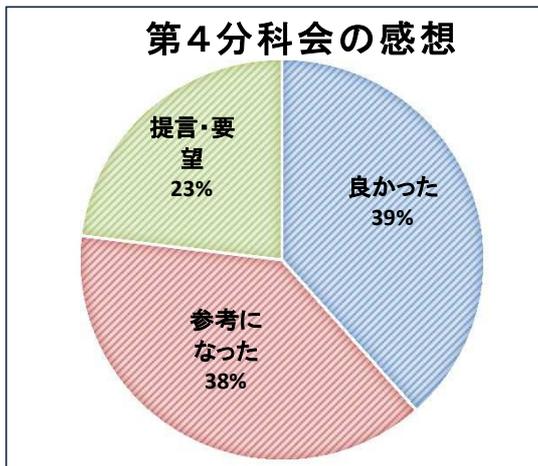
◆参考になった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	それぞれの実践について参考になる部分が多かった。
2	5	各地域の活発な活動を知ることができた。
3	5	いろんな立場の方から、生の意見、提案、活動紹介、情報等を広く聞くことができたことは、自分たちの活動の振り返りや今後の活動をどうしていったら良いか、ヒントも得ることができたこと。
4	5	様々な意見が出て、今後の公民館と地域とのつながり方について、とても参考になりました。
5	5	多数のヒントをいただき、今後の活動に取り入れたい。 公民館がキーステーションとなり各種団体との連携を進めていきたいと思いました。
6	5	1、3つのプロジェクトの発表が大変参考になった。 2、各地区での活動(取り組み)に刺激を受けた。
7	5	参加者がいきいきと話し合いをされていた。グループで話すときも、もっと話したい様子。 疑問質問も同じグループ内で話し合えて参考になっていたようだ。
8	5	各自の活動を聞いて、すごく参考になりました。
9	4	3事例の発表は、これからの地域福祉活動を進めていくうえで、大変参考になった。また、「みんなの孫プロジェクト」の取り組み事例は、地域住民との係り方で大いに参考になった。

◆提言・要望等の内容

No.	満足度	内 容
1	4	事例発表も助言者の方も素晴らしかったです。 ただ、話し合いの時間が足りない感じでした。
2	4	④時間不足で消化不良が少しありました。(分科会も) もう少し広い場所であるとよいと思いました。もっと深い話し合いが出来るといいですね。記録を楽しみにしています。
3	4	・話し合いを深める時間が足りない。
4	-	もう少し時間が(あとは地域で?)

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果－6（第4分科会の感想等）



参加者数: 45名
 記入者数: 13名
 記入率: 29%

分類	件数	率
良かった	5	38%
参考になった	5	38%
提言・要望	3	23%

◆良かった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	テーマが1点に絞られており、まとめやすいが、物足りなく思う。
2	5	すべて良い。
3	5	・若者のがんばっている姿を見ることができた。 ・また、いろいろな人が参加して下さり、たくさんの情報を得ることもでき、つながりをつくることができた。
4	5	実践発表2件とも驚きでした。 若い人達が、充実した感想も聞き何か未来を感じる事が出来ました。
5	5	発表がよかった。ワークショップでの話し合いが充実していた。 助言者や、他のグループでの発表もわかりやすく、有意義な時間でした。

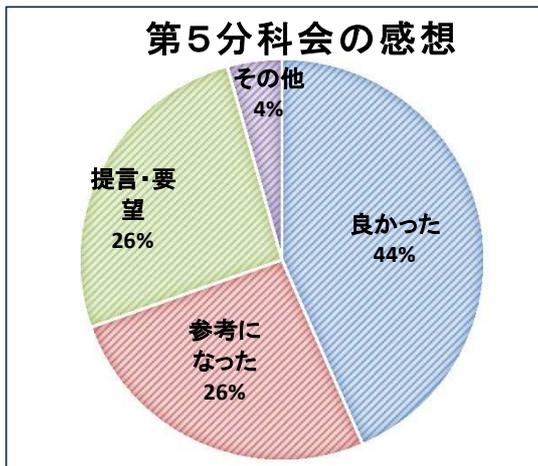
◆参考になった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	多世代、多地域の人々の声を聞いた。
2	5	発表では高校生・大学生の若い意見・素直な想いが聞けて、これからの地域社会への若者の参画を考える上で、とても貴重な機会でした。 グループワークでも、多様な立場、年代の人々の話から刺激を受けた。
3	5	実践例の話聞くことができた。 問題の見つけ方、解決法についても学ぶことができた。
4	5	グループワークの顔ぶれが様々で、話していてとても参考になり、楽しかったです。 いいことばかりではなく、課題点も反省点もわりとあけすけに話せる雰囲気だったと思います。
5	4	意見交換ができて良かった。いろいろな方の思いを聞いた。

◆提言・要望等の内容

No.	満足度	内 容
1	4	岡山での開催ということで、公民館、社会教育についての豊富な知識と見解をお持ちの参加者が、さらにESDについても真剣に熱く語っているのが、とても印象的でした。 若者の参画には雇用が必須であり、そのための場づくりが実現していくといいと思いました。
2	4	ファシリテーターが聴き役が出来ていなく、自分の事ばかり話をされたから。
3	3	テーマが1点に絞られており、まとめやすいが、物足りなく思う。

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果－7（第5分科会の感想等）



参加者数: 49名
 記入者数: 23名
 記入率: 47%

分類	件数	率
良かった	10	43%
参考になった	6	26%
提言・要望	6	26%
その他	1	4%

◆良かった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	皆さんモチベーションが高い。
2	5	皆さん大変真面目に取り組んでおられ、未来へつなげるパワーを感じた。
3	5	参加した人たちと、いろんな意見が言い合えたりして、とても楽しかった。
4	5	みなさんの前向きな意見を聞くことができた。
5	5	各分科会共、若者の参加があり、非常に熱心な発表、意見交換が繰り広げられ、新たな知識を獲得されて感動されていた。
6	5	助言者が良かった。
7	4	・色々な意見が出て、ユニークな発想もあり、楽しく話し合いができた。 ・子ども達に「実体験」をさせる事が、とても大事と言う点は全員が同意した。（CMで言う「学んだ事は無くならない」と言う事） ・意見をまとめるのが、少し大変でしたが、明るい会だったと思います。
8	4	自分たちの活動を知ってもらえた。
9	4	いろいろ勉強していらっしやる……
10	3	こういう人がやっているんだと知ることができ、いろいろな話が聞けてよかった。自分の館の取り組みを振り返る機会となった。

◆参考になった感想内容

No.	満足度	内 容
1	5	・どの地域も公民館を中心にもっと地域へ、もっと子どもたちへという思いをもっていることがよくわかった。 ・自分が地域の中で、何かできることがあれば、参加したいと思いました。
2	5	1班～7班の活動報告が大変中身が深く参考になりました。 いろいろな公民館活動をお聞きして勉強になりました。
3	5	発表で考え方が変わった。
4	4	公民館としての役割や問題点も分かった。
5	4	・地域づくりの課題を抱えていたので、具体的なアドバイスがいただけ、とても有効でした。 ・話し合いを深める時間が足りない。普段聴くことのできない他の事例について学べた。 それぞれ参加している方々の熱意も感じる事ができた。
6	4	地域をこえて、知らないことを知る機会になったという声があり、こういう場を継続することの意味が大きいと思います。

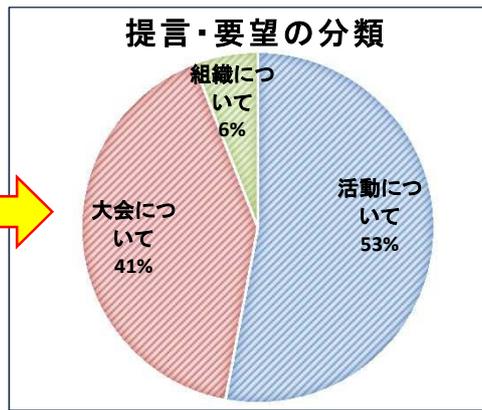
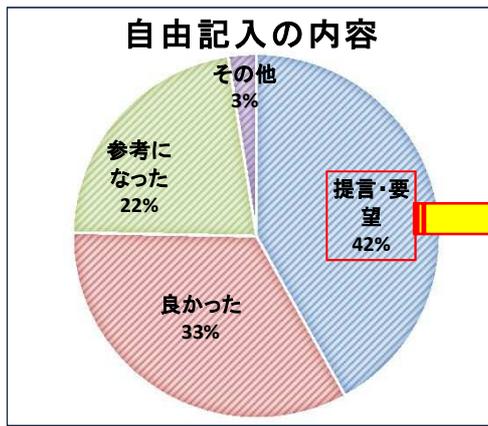
◆提言・要望等の内容

No.	満足度	内 容
1	5	今後どう活用していけば・・・ボランティアガイドの養成
2	5	我々の作業度合いを考えると、かなり進んでいると思われる。
3	4	時間が足りない。50名をこえる人数だったので全員が十分に発言できていないと感じた。 内容としては、事例発表もワークもよかったと思う。参加の方々も何かしら気づきや得るものがあったと思う。
4	4	思いのある方ばかりで、前向きな意見が多く、それぞれの励みになったと思う。 ワークのお題は難しいが、じっくり深く腹を割って話ができるよう今後も工夫したい。
5	3	「課題」について、もっと深い議論をしたかったと言われた参加者の方がいらっしやって、時間的に厳しいところはあるけれど、WSのやり方、問いかけ方はもう少し工夫出来たか？と思いました。
6	2	時間が少なかった。

◆その他の内容

No.	満足度	内 容
1	4	表面のとおりです。

第1回 岡山市立公民館大会アンケート分析結果-8 (自由記入の内容)



参加者数: 280名
 記入者数: 81名
 記入率: 29%

分類	件数	率
提言・要望	34	42%
良かった	27	33%
参考になった	18	22%
その他	2	2%

提言・要望の分類	件数	率
活動について	18	22%
大会について	14	17%
組織について	2	2%

◆提言・要望等の内容

★活動について

1	どうしても敷居が高いので、気軽に行きやすい、参加しやすいプチ講座のようなものがあれば参加しやすいかも……
2	それぞれの公民館で活動されている人たちが、岡山エリアとしてさらにつながって機能して、より良い社会をつくることができればよいと感じます。
3	中高生が公民館のイベントの企画にかかわれるようにして欲しい。ボランティアも含めて。
4	若い人の活動する場があればもっと良くなるのではと思います。(夏休み中だけでも)
5	市内の数ある公民館は、それぞれ地区の特色があり、合併地区の多い田舎の公民館や旧岡山市内の公民館ではその活動内容が異なっているのが当たり前であり、そうあるべきだと思っています。それを同一型に指導はしないで欲しい。公民館の職員の皆さんは公務員、どうしても行政型の指導になりがち。また公民館の運営委員の中で行政的な委員は公務員OBが多く、建前、理屈ありきになりがちだと思っています。民間企業は、まず目標を決め、その為の手段を皆で考え、いろんな考え方をだし、一番良さそうだと皆が思った方法をまずやってみる。それがうまく行かなかったら、すぐ次の手を実行する。その変わり身の早さはぜひ勉強すべきだと思います。→難しいですかネ
6	どうすれば社会に役立つか、いつも考えている。ヒントの一環を得るため、公民館を利用している。皆の考えを聞いたり、チラシ等を見て興味があるセミナーを受けている。学んだ事を皆に紹介することが、社会還元の一つと考えている。
7	・地域のみなさんの協力を得ながら、長いスパンでの活動をして欲しい。(「何をしたいか」をうまく聞き出すことが重要) ・公民館職員の仕事量が多すぎるので、増員をしてあげてください。(人と人との関係を築きながら、事務をするのは忙し過ぎるのでは)
8	・公民館事業については、地元の問題を良くとり上げてくれていることが分かった。 ・事業については、目的をもってはっきりさせるべき。 ・公民館同士の会議を持つべき。
9	継続して行くための次世代後継者を掘り起こすことの重要性を活動の中にぜひ盛り込んで下さい。
10	・やはり公民館が地域の活動拠点に間違いない。 ・防災の点でも丈夫な建物であって欲しい。
11	全く別件ですが「ESD」の観点から、言語(日本語)の「地産地消」「在来種の尊重」国粋主義者ではありませんが、何でもかんでも安易に英単語に置き換えないで、できるだけ日本語単語を使うべきではないかと思いました。文化の問題として問題提起したいですね。報告冊子に氾濫する英単語に目が止まりました。
12	感動、ワークショップで盛りあがった。模造紙でみんな新たな気づきがあり、うなずいていた。とても良かった。公民館は地域にうずもれている宝を発掘(歴史)若者が地域に誇りを持って地域づくりに一層の取り組み、情報提供をお願いしたい。
13	もっと他のイベントなどを利用して、たくさんの方が公民館に来てくれるようにしてほしいと思いました。今日はありがとうございました。
14	公民館に入りやすい環境をつくる。
15	「こうしたい」と言う参加者の声が公民館活動の進展に生きるよう、今日だけの話にしなないことが大切だと思います。「未来へつなげる地域の宝」の活動は、博物館活動でもあると思います。公民館にある歴史、自然の資源を掘り起こした活動の全体像が分かるようにまとめ、市民共有の財産になるよう、シテミュージアムや図書館、RSKアーカイブなども連携して、本気でまとめていきましょう。公民館の分科会の話題で公民館がやるべきことは、これだけではないのですが、まとめて見せることは、まずできるのでは。「公民館まるごと博物館」…総合博物館のない岡山市だからこそ、必要なのは、やる意味があるのではと感じました。
16	未来を拓く〜の割には若い方の姿が少ないのは残念ですが、公民館の利用者がaround70'だから仕方ないですけど…、中学校や高校生、大学生と取り組んだことなど、もっと発表されたいかな？ 何より、今の公民館が、既得権の弊害になって、利用者の広がりが妨げられていること(例えば、免除団体の利用の無軌道ぶりによって、夜日祝の部屋が一般に貸せない事態など)公民館の運営をもっと、今、公民館を利用していない市民に渡す決意が必要ではないかと感じる。
17	地域の取り組みの充実。社会教育の意義のPR。
18	今も、しっかりとよくして頂いてますが、今後共、情報提供、人的資源の応用等、どうぞご指導下さい。ありがとうございました。

★大会について

1	企画・準備お疲れ様でした。公民館に関わる組織等もっと多くの方にもぜひ参加していただきたいです。公民館への期待もどんどん高まってきていると思います。"協働"の拠点プラットフォームとして今後も共に一歩一歩進めていきたいです。一緒にがんばりましょう。
2	年によってテーマを1つに絞って、いくつかの事例発表の後、全員が同じテーマで話し合えるようにしたらどうでしょうか。できたら半日くらいのほうが皆、参加しやすいと思います。職員の立場から言うと、会議の数が多すぎて、自館が手薄になってしまい困ります。担当者で、企画・運営できる規模にして、他の職員は当日のサポートくらいにしたいのと良いのですが。

3	分科会のグループ討論は時間が短すぎる。もっと時間をかけて討論できれば本質を突いたものになると思う。 公民館に期待することは、 1. 地域のリーダーを育成する講座を設けてほしい(地域のリーダーになる人がいないのが現状である) 2. 地域の課題解決のため、関係機関と連携した共催の講座開催 3. 公民館が協働の拠点となり、地域をつなげていくコーディネーターの役割を期待する
4	基調講演は必要でしょうか。 せっかく市民の方がたくさん集まってくださっているので、一日かけて分科会を行い、深めていくという進め方もアリなのではないでしょうか。 15:20からの全体会はせっかくの発表があまり頭に入りませんでした。朝からの参加だと、一日で時間が長かったこと(疲れました)、参加していない分科会については、詳しく知ることができなかったのも、話についていくことが難しかったです。
5	今後も、こういった分科会などを開催してほしい。
6	徐々に縮小してください。
7	昨年も思いましたが、遠方から市民の方々が集まっていたので、自分たちの活動もしっかり話し、情報交換できる十分な時間が必要だと思います。 最後の全体会での発表は必要でしょうか？この時間を分科会にあてて、分科会の中で終了でいいのでは？と思います。そうすれば、急ぎ全体会へ行くために参加者同士が話(交流)途中で終わることがないと思いました。分科会のよい余韻が途切れず、そのまま家に持ち帰れるのではないかと思います。
8	午前～午後を続けて参加しましたが、やはり長かったです。
9	チラシをたまたま見て参加したのですが、すばらしい発表や話し合いをされていて、とてもよい大会ですね。 岡山市の公民館を支える職員さんたちや参加者さんたちの熱心さを知ることができました。 今後も、岡山市の公民館活動がますます盛んになっていくことを願っています。 私にはダウン症(21番の染色体異常)の子どもがいます。発達障がい以外の障がいのお子さんもたくさんいます。(肢体不自由や希少染色体(13番、15番、22番の染色体異常など)なども含めて)。なので、様々な障がい児と親たちの居場所づくりや地域の人たちとの関わりでの支援にも目を向けてくだされば、うれしく思います。
10	岡山市の公民館のソフト面の充実が素晴らしいし、ESDという視点も先端だと思う。 こういった学びの場を提供して頂きありがたく感じます。 地域に根差した第3の場、学びの場を継続発展させてほしいと思う。
11	地域住民と腰を据えて地域課題に取り組む時間を確保しましょう。 公民館大会は3～4年に1回で十分ではないでしょうか、発表のためだけに活動している訳ではありません。岡山市の公民館の頑張りは、県内、他都市へ発信し、理解を高めましょう。
12	本日の参加者にも若者が参加できるよう期待しております。
13	新しい人が来るような大会がいい。 座学のお勉強で、ヘビーユーザー来るだけじゃ、すそのが広がらないと思う。
14	来年度は「若者」をテーマにしたら。 佐藤先生のおかげが、心に残った。

★組織について

1	・勤務先では公民館にはお世話になっているが、住まいの地区でまだ一度も行っていないので近々行ってみようと思う。 ・中央公民館は地区公民館と違い、行政的というか指0的に感じたことがあります。
2	各公民館が努力して作り上げた良い点をまとめて各館へ示すだけでなく、中央組織がみずから予算と計画をもって、各館の空き時間空きスペースを利用して、稼働率を100%にする。その様な組織があっても良いのでは。中央公民館という実物は無くても活動できるのでは。各公民館はそれ自体の活動で忙しいと思うので、中央組織は必要です。公民館の新しい活動分野を研究し、実施することが必要です。公民館の空間は365日の内、空き時間がたいぶあると思います。

◆良かった感想内容

1	初めて参加しましたが、とても学びの多い一日でした。公民館職員さんも一緒に、自由な会話のやりとりができ、これから益々取り組んでいてもらいたいです。社会教育の場として、自由な市民主導の学びが、できるよう期待しています。 各分科会の報告集と参加人数が知れたらと思います。報告を聞き、後継者を育てることが今後の一番の課題と思いました。
2	地域の中で、青年団、町内会、イベントなどの若者の参加を導くには、公民館の中継点としての役割はとても重要だと思う。地域とのつながりのため、ひいては未来地域の人材のために、これからの公民館の変化に期待したい。 特に、時代に合った情報発信にすること、公民館員が地域(高齢)住民と若者との中継点の中継者となること、を期待します。 今日は、ありがとうございました。
3	グループワークでも参加者の熱意を感じました。
4	本当にお疲れ様でした。
5	基調講演が分かりやすく公民館の役目と地域のあり方がよく分かった。
6	・分科会で、いろんな人同士で交流や情報交換ができて良かった。 ・次に大会をする時の会場はどこ？と考えてしまいました。 ・分科会のテーマが毎年同じようなテーマだったら、参加の顔ぶれが毎年似てくるかな…と思いました。(同じ人が学びを深める感じ)毎年テーマを変えるのも難しいし、毎年違う事例を出すのも、だんだん難しくなるのではないかな。 ・司会の方が上手です。
7	ありがとうございました。
8	①公民館が“自己完結・自己満足”で終わらず、地域の発展に結び付く場になって欲しい。 ②公民館利用者として“助けてほしい”から“何か役立つことをやりたい”と思いました。 ③介護予防健康促進の講座が増加してきて私としてはうれしい！！
9	別の分科会にも参加したい気持ちでした。次回も楽しみにになりました。
10	・今後の公民館活動の地域での支える役割がとてもその可能性に期待できそうと感じた。(理由) ・公民館の事業運営が都市型から自治公民館に変わっていきそうな雰囲気あり ・子供達や若い人への呼びかけ「地域の未来を語る」等の企画を”〇でもあり”感覚でチャレンジしてみる→その情報についての公民館同志の情報の共有化をしながら、地域住民にどんどん発信して欲しい。
11	本日の多数の意見交換を今後の活動に生かしてもらいたい。
12	今後とも、公民館大会が開催され、進化することを大いに期待しております。

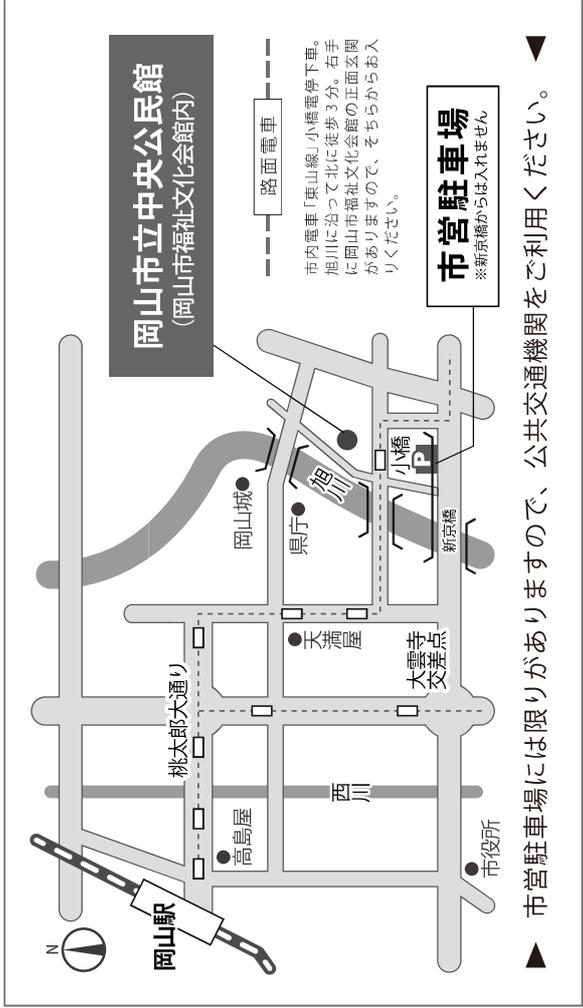
13	公民館のスタッフの皆様にはいつも笑顔で楽しくお世話になっています。 今後も楽しい活動に、どんどん参加していきたいと思ひます。ありがとうございました。
14	参加者が多く、いろいろな立場の方が、公民館を支えてくれている、公民館に期待されていることを体感を通して感じました。 これからも一緒に、つどいの場、いこいの場、学びの場、活動の場をつくっていきましょう！
15	公民館、学校、地域団体の中だけで完結するのではなく、活動の中でそれぞれの役割でできることや利点、長所などを組み合わせようまくコラボしていければいいなと思ひました。 今後も色々な人に公民館を利用してもらえると、職員としては嬉しいです。
16	丸一日でしたが、とても充実した一日でした。たくさん学びがあり、つながりも出来ました。 これからも、地域を元気にする活動を続けていきます。 (ラウフワーク) お年寄りと子供達が笑顔でコラボできる場づくりです。
17	第一部の佐藤先生のお話、とてもよかったです。 先生の公民館に対しての幅広い知識は素晴らしいと、声もよく、席が一番後ろでしたが、よく聞きとれたこともよかったです点の一つです。
18	他学区、異業種、意年代の方と同一テーマでコミュニケーションを取れた事は良かった。
19	地域の核となるよう期待します。
20	このような取り組みがあることを、もっと大きく知らせたいと思う。また参加させていただきます。
21	今後も続けていってほしい。
22	もっとこのような会を開いてほしいです。
23	分科会のワークショップに参加して、元気と知恵をいただきました。ありがとうございました。
24	いい企画でした。
25	公民館の存在を今までよりもっと身近に感じる事ができました。
26	このような公民館大会は、ぜひ今後とも継続して開催してほしい。 とても参加して良かった。第1回とは知らなかった。
27	今回のような会を続けてほしい。

◆参考になった感想内容

1	そこに、たずさわっている我々が頑張らないと、いけないと思ひました。
2	当日まで段取りが変わり、準備が大変でした。もっと時間をかけて計画を練ることも必要だと思ひました。
3	次回以降も取り組まれることを期待しています。 日常の公民館では、男性の参加が少ないが、本日は多くの男性参加—これを日常に活かせる方法を考えたい。
4	午前の基調講演で、公民館の新たなステージという話がありましたが、ESDの持つ、グローバルな課題への結びつきが、学校教育を超えた学習社会を形成していく可能性を知ることができました。 午前、午後ともに、事務局のオーガナイズがしっかりされていることに感謝申し上げます。
5	来年度以降の開催を何処ですのかな？継続が大事。
6	帰省中に市民のひろばで開催を見つけ、中央公民館も閉館すると聞いたので、これは行かねばと思ひ、参加しました。 現在住んでいる横浜市でも市民活動が自主学習はたくさん行われていますが、横のつながりが少ない印象があるので、たとえば発達障害でも、当事者、支援者以外の人は、知るきっかけが少ないことは多いです。 ひとつの活動で公民館に来た人が、他の活動に参加したり、学びを深めたりといった連鎖がおこるのは、身近な地域でいろんな情報や活動や人が集まる公民館ならではの、と感じました。 そういうインフラがある、活動に参加する人たちがいる岡山市をうらやましく感じます。
7	公民館には年齢の高い方が多いが、三代交流も町内会と一丸となってやればいいのか。
8	佐藤先生の講演と岡山のレベルをほめていただき嬉しく、頑張りたい。
9	団塊世代のできることを、少し視点を変えなければならぬと感じました。 そのあたりは、公民館の職員の方とも話させていただいて、次のステップを踏みたいと思ひます。
10	よい話が聞けましたが、今後参考にして、どのように活動したらいいか考えました。
11	基調講演、自分が何に対して仕事をしているのか、改めて考えることができました。
12	地域でどのように関わろうか、理解を拡げていくななど、発達障害のことを知ろうという思いが伝わり、感激しました。 地域の中で生きる、自分自身がこれからどう考えるか、どう関わるか、課題をいただいたなと思ひます。 地域の核としての公民館であると思ひました。
13	・問い学びの時間が与えられました。 ・公民館の主催事業における働きも、公民館の働きは素晴らしいです。
14	これからの活動を考える上で、いろいろと大変参考になりました。
15	防災に対する意識が変わった。 いざと言う時の注意すべき事が意識できるようになった。
16	私は、あと2年間でも、御津防災キャンプに参加して、昨年よりも充実した防災について学びたいと思ひます。
17	今日学んだ事と実際に災害が起こった時に役立てたい。
18	今日の大会での学びを、自分の立場で、どう生かしていけるか、考えていきたいと改めて思ひました。 運営に携わったスタッフの皆様にお礼申し上げます。

◆その他の内容

1	資料の向きが縦横になっていて見にくかった。字が小さい。
2	AEDは、コンビニに常設してはいかがか。 24時間使用可能だと思ひますし、場所は誰でも分かっていると思ひます。



岡山市立中央公民館
(岡山市福祉文化会館内)

市内電車「東山線」小橋電停下車。
旭川に沿って北に徒歩3分。右手
に岡山市福祉文化会館の正面玄関
がありますので、そちらからお入
りください。

市営駐車場
※新京橋からは入れません

▶ 市営駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。◀

お申込み方法

下記参加申込書に必要事項をご記入の上、
中央公民館、または最寄りの公民館へお
申込みください。(電話・FAX可)

当日の注文はできません。注文されない場合は、各自屋敷
をご持参ください。当日受付でお支払いをお願いします。
(就労継続支援B型事業所に作っていただきます)

当日、託児場所へ託児料のお支払をお願いします。おやつ、
飲み物、おもちゃ、おむつ等必要なものをお持ちください。

参加申込期限
1/30 火まで

お問い合わせ お申込み先 | 岡出中央公民館 | TEL 086-272-7886 FAX 086-271-1384
〒703-8293 岡山市中区小橋町1-1-30 開催時間：9:30～21:00 (日曜日は17:00まで) ※水曜日・祝日休館

第1回 岡山市立公民館大会 参加申込書

フリカ お名前	所属 (利用公民館名)	電話番号 FAX	記入希望 人(150円/時間)
参加内容	<input type="checkbox"/> 基調講演 <input type="checkbox"/> 分科会 <input type="checkbox"/> 全体会 <small>※終日参加される場合は3つとも✓をつけてください</small> <small>※参加される分科会を1つ選んで✓をつけてください</small> <input type="checkbox"/> 1.地域の子育て支援 <input type="checkbox"/> 2.防災・減災 <input type="checkbox"/> 3.地域福祉 <input type="checkbox"/> 4.若者の参画 <input type="checkbox"/> 5.地域づくり	託児希望 <small>※託児を希望される期間をご記入ください</small> [時 分] 時 分 分 分 分 分	料 700円 <small>※就労継続支援B型事業所に作っていただきます ※当日の注文はできませんのでご注意ください</small>
幕の内弁当(お茶付き) … 700円	<input type="checkbox"/> 注文する・ <input type="checkbox"/> 注文しない <input type="checkbox"/> 注文する・ <input type="checkbox"/> 注文しない		

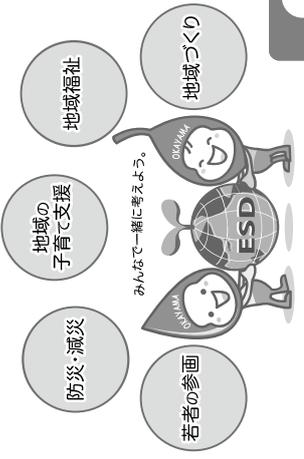
ご確認ください | ※申込時にご記入いただいた個人情報、本大会以外の目的に使用いたしません。 ※当日は、報道機関の取材などでカメラ撮影が行われる場合がありますのでご了承ください。

ESD 先進地岡山から 地域をつくり未来を拓く公民館 ～集い、学び、協働する～ 岡山公立公民館大会

【第二回】

と き 2018 2/12 10:00 9:30
[月] 16:00
[土曜日] 受付開始

会 場 岡山市立中央公民館
岡山市中区小橋町1-1-30
(岡山市福祉文化会館内)



日程

開会式 (10:00～10:10)

基調講演 (10:10～11:45)

「地域をつくり未来を拓く公民館
～ESDの推進からみえてくる地平～」
講師：佐藤 一子さん (東京大学名誉教授)

分科会 (12:30～15:10)

- 第1分科会 … 地域の子育て支援
- 第2分科会 … 防災・減災
- 第3分科会 … 地域福祉
- 第4分科会 … 若者の参画
- 第5分科会 … 地域づくり

全体会 (15:20～16:00)

参加無料 | 定員250名
(先着順)

託児あり
定員：7名 要事前申込
託児料：150円/時間

申込方法等は
裏面に記載し
ています。

主催：岡山市立中央公民館 主管：岡山市立公民館大会実行委員会

分科会

4

若者の参画

若者が躍動する地域社会をどう創るか

若者のもつ構想力や行動力を、資源としてどう地域社会に活かすのか。そして、若者が地域の未来をつくる主役となるために、どんな居場所やつながる機会があるのか。若者たちと語り合いながら、若者が躍動する地域社会をどう創るかを考えます。

助言者

中国学園大女子とも学部講師
野村 泰介

事例発表

世代を超えた地域住民が集い交流できる場づくり
(地域活性化団体 Miracle(ミラクル)代表：西山 香美)

「らっかんランチ食堂」～地域をつなぐ後楽館の挑戦～
(岡山市立後楽館高校有志)

分科会

5

地域づくり

未来へつなげる地域の宝
～つなげていこう人と人の絆～

地域にある史跡や自然を守るだけでなく、地域の宝を活用しながら、人と人のつながりを築き、住民主体の地域づくりを進めていく方策を考えます。また、も図ります。

事例発表

地域に眠る魅力を起こす～歴史文化を形に残し、次世代につなげる～
(妹尾公民館 井戸マッププロジェクトメンバー)

子どもたちへつなぐ瀬戸の宝物～豊かな自然 多様な生きもの～
(瀬戸町ダレマラガエルの会)(瀬戸公民館)

分科会

1

地域の 子育て支援

子どもも大人も育ちあう
～孤育てから地域でつながる子育て～

※今回は発達障害をテーマに地域の子育て支援を考えます。

岡山市の各公民館では、さまざまな活動をおとして、子どもと子育て中の人、子育てを応援したい人がつながり、お互いに学び合いながら成長しています。

地域で子育てって、どうしたらいいの？私にも何かできる？子どもたちの明るい未来のために今からできることをいっしょに考えます。

助言者

臨床心理士 /
NPO法人岡山県自閉症協会理事
土岐 淑子

事例発表

発達障がい定例座談会「あおぞら」～学びから広がる新たなつながり～
(岡西公民館職員：小谷 文子)(発達障がい定例座談会「あおぞら」参加者)

イチから知りたい！発達障害～話すことでホッとできるゆるやかな学びの場～
(操南公民館職員：万代 貴書)

分科会

2

防災・減災

“命を守る地域の輪”中高生も大活躍！
「自助・公助・共助」の防災を学ぼう

岡山市では地域住民の防災力向上を図るため、防災キャンプが地域ごとに行われています。その中で御津地域では中高生がリーダーとして参加し、運営の一翼を担っています。この分科会ではその中高生

助言者

NPO「まちづくり推進機構岡山」理事
徳田 恭子

事例発表

御津を守るのは私たち。～御津防災キャンプの取り組みから～
(岡山県立岡山御津高等学校：河田 紗穂、篠田 みずき、堀田 成美)
(御津防災キャンプ実行委員会：藤井 賢一)

分科会

3

地域福祉

住みなれた地域で自分らしく生き生きと暮らせるまちづくり

岡山市における65歳以上の高齢者人口は18万人を超え、市民の4人に1人が高齢者という「超高齢社会」を迎えています。高齢者が孤立しないよう気配りに集まることのできるカフェやサロン活動、

助言者

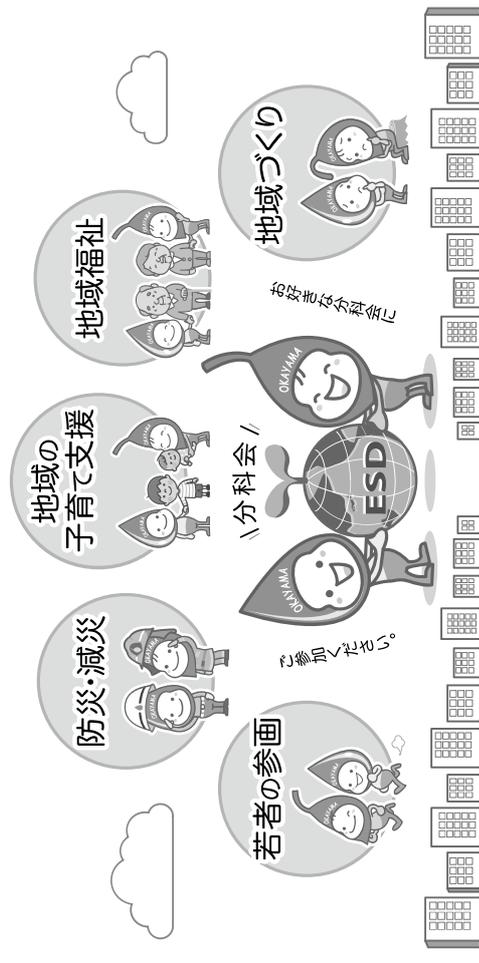
みんなの森プロジェクト代表
水柳 大地

事例発表

人と地球に優しい、地域コミュニケーションづくり～ESDオープンカフェ三木～
(あかねがクラブ：松本 晃昭)(東公民館職員：大森 美幸)

サロン交流会～小地域で自発的に立ち上がったサロン活動と公民館との関わり～
(津高グリーンハウイツェいびろん世話人：船守 敏子)(瀬井ほからサロン代表：宍戸 綾子)(津高公民館職員：花房 聡子)

福祉委員・援護委員による見守り活動
(富山学区福泊町内会：本澤 美夜子)



【主催】岡山市立中央公民館
 【主管】岡山市立公民館大会実行委員会

第1分科会

地域の
子育て支援



第2分科会

防災・減災



第3分科会

地域福祉



みんなで一緒に
考えよう

第4分科会

若者の参画



第5分科会

地域づくり



ESD先進地岡山から /



ESD先進地岡山から 地域をつくり 未来を拓く 公民館 ～集い、学び、協働する～

参加無料
(先着250名)

託児あります。
費用：150円/時間
定員：7名

岡山公立公民館大会

第一回

とき 2018 2/12 10:00 9:30 受付開始
16:00 [月]

会場 岡山市立中央公民館

岡山市中区小橋町1-1-30
(岡山市福祉文化会館内)

市内電車「岡山橋」小橋電停下車、旭川に沿って北に徒歩3分。右手に岡山市福祉文化会館の正面交差点がありますので、こちらからお入りください。

市営駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。



開会式 10:00-10:10

基調講演

10:10-11:45

「地域をつくり 未来を拓く 公民館
～ESDの推進からみえてくる地平～」

講師：佐藤 一子さん (東京大学名誉教授)

分科会

12:30-15:10

地域の子育て支援

防災・減災

地域福祉

若者の参画

地域づくり

全体会

15:20-16:00

各分科会の報告、基調講演講師からのコメントなど、分科会の内容を共有します。

日程



お問い合わせ
お申し込み先

岡山 中央公民館
市立
〒703-8293 岡山市中区小橋町1-1-30

TEL 086-272-7886 FAX 086-271-1384
開館時間：9:30～21:00 (日曜日は17:00まで) ※水曜日・祝日休館